通りに片がつく。

## ▲土地問題

農夫達は土地整理についての御役所の繁文縟禮官僚主義には全く泣かされてゐる。土地整理問題は口先きばかりで、一年半にもなるのにまだ實行されてゐない。だから農夫達は折角耕して肥料をやつたはいゝが、種が芽出す時分に、土地整理にひつかゝつて土地を取り上げられてはたまらぬと心配してゐる。

## ▲村の商店

歐洲戰前には此の村には大商店が十二三軒あつたものだが、今では僅か二軒に減つた。村の殖産金融組合が一切の商業の權を握つてゐるからだ。組合は商賣が主であるが、樹脂工場を持つて居り煉瓦工場の設立にとりかゝり、その上製材工場も目論見んでゐるなど、



仕事は澤山あつてもちつとも實績が上らない。お役所式だからだ。ところが毎日曜ごとにバザーで開く個人の物賣りは、官營の店よりも高く賣つてはゐるが、買手の氣に入るやうにうまくやるから非常に便利がられてゐる。こんな商人は、購買組合で順番を待つてゐる使ひの小供に鼻藥をつかつてその買物を横取りしたりする。

## ▲學校

村にも小學校がある。村サウエートの在る家の二階に千九百十四年から設けられてゐるが、四學年まで通ふ生徒なんかありはせぬ。校舍はとても不潔で、クモの巣が一杯で、どの机も壞れて滿足なのは一つもない。黑板なんか無い、白板で代用だ、だから白墨でなく、炭で板に字を書いてゐる。子供の方も字を書かうにも、紙も、鉛筆も、ペンも、インクも何にも持たない。その上革命後學校では神樣にお禱りすることを敎へないからといふので、村人達は子供を學校に出すことを嫌ひ、大抵家庭の仕事を手傳はせるやうにしてゐる

から、學生は百三十人もあるが缺席者がとても多く、通學は不規則だ。

## ▲公爵の別邸

元、ゴリツ井ン公爵の別邸だつた豪壯な建物は、今では國民倶樂部になつてゐる、二百人も收容されやうといふ大廣間は、あつちもこつちも煽動文や、標語がべた〳〵と貼り出されてある。時々演說會がこゝで催される。寫眞などは一枚も揭げてない。圖書室の隅つこにピヤノが一臺ポカンと置いてある。

私がこの圖書室にはいつて見た時には、丁度不良少年どもがピヤノに合はせて踊つてゐた。舊時代の書籍などは無論一切備えつけてない。鄉の圖書館から讓り受けたらしい農業書が二三冊舊時代の遺物として見受けられたゞけであつたが、革命時代のものは六百十八冊もあつて、統計によると一年間の入場者四百九十六人、圖書帶出者八千二百四十六人とあるが、どうせ當になつたものじやない。



## ▲病院と花柳病

村の北の端れの河岸に煉瓦建の病院がある。千九百十四年に地方農業組合で建てたので病室三十、手術室、藥局、齒科部その他相當に完備したもので、昔は醫者一人と看護人二人ほどゐたが、今日では病院として使はれてゐない。今では別に施療所が一ヶ所あつて、サウエート管轄下の各村落ばかりでなく、近隣の村落の病人も取扱つてゐるが、どこの村にも花柳病が非常に傳播してゐて、毎年施療を受ける男の花柳病患者は百二十名だが、秘密に治療してゐる者はどれだけあるか判らない。もつとも平氣で治療にやつて來る女の花柳病患者も少くない。

それで花柳病と、私娼撲滅のため嘗て特別委員會まで出來たが、肝腎の議長先生が花柳病患者である癖に、治療も受けずに村々の娘達を追ひ廻はして盛んに病毒を傳播して花柳病傳染實行委員會議長になつてしまつた。施療所は村落委員會の經營だが、醫者の給料に

も差支へたので閉鎖しやうとしたのを、村人達が金を出し合つて今日に至つてゐる。

## ▲お寺と墓

村には煉瓦建の教會堂がある。嘗てゴリツ井ン公が寄附されたものであるが、も一つ木造の祈禱所がある。野原には數多の十字架が建つてゐる。坊さんの生活は豐かだ、信者が醵金して、村サウエート議長並みに一年三千留づゝも寄附してゐるからだ。村人は今も昔同樣に神樣を信心してゐる。だから昨冬ベルム市から司教が來て「活ける宗教」に改宗を勸めたときには村人は頑として肯かなかつた。そして新派の僧侶は村に來るには來たが、渡り者だといふので放逐されやうとしたのを、その僧侶が悔ひ改めたので、今では村人と仲よくしてゐる。

村の眞中に柵で圍まれた廣場がある。昔村の寺と墓とあつた處で、二十五年前に寺が燒け、墓も取り拂はれ、その跡に小さな煉瓦製の十字架が建てられた。村サウエートでは此



處を幼稚園にしやうとしたところが、先祖の眠つてゐる所を幼稚園などにするのは以ての外だと、村人達が怒り出したので沙汰やみになつた。

## ▲共産黨と村民

村には共産黨の細胞が一ヶ所あつて三名の人間がゐる。四十五の小字と、一萬の住民を管理するサウエート所在地に僅か三名から成るヤチエイカである。その三名のものは矢張り村内に住み上の命令通り人並みに「何々週間」とか「何々演說會」とかをやつてゐるが、その三人で判らぬことは上の機關に伺ひを立てるが返事の來たためしはないとふ。無論村人達はそんな者の相手にはならない。青年共産黨（コムソモール）のヤチエイカもある。十七歲以下の少年が十一人ゐるが、どれも貧農の子か孤兒である。私のゐた四月から六月までの間には一度も集會がなかつたが、書記が無能だとあつて七月に一度書記改選の會議があつたが、その時就任した書記先生も二週間ばかりで脫黨してしまつた。村では青年共産黨なんか蛇蝎の

やうに嫌はれてゐる、誰も相手にしない、彼等のやることで成功したのは運動場だけだ。そこになると無所屬團の方が勢力がある、時々ダンスなどをやつて大騒ぎする。

一般村人達はサウーエト政治下の生活に對しては「活きて行く張り合がない」といふ感じを誰しも抱いてゐる……。（完）

# 八、共産黨及第三インターナショナル

## 全露共産黨員數

### ——二十六年度以降は增加率衰退——
### ——黨員の素質低下——

千九百十七年四月頃には、八萬人そこ〳〵しかなかつた露西亞共産黨員の數は、一昨年末からは百萬人を突破した。今六月末に同黨中央委員會統計部で發表したのによると各年始の現在黨員數は

| | 正黨員 | 準黨員 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 一九二五・一・一日現在 | 三八三、四一四人 | 三二九、九四四人 | 七一三、三五八人 |
| 一九二六・一・一日現在 | 五九二、一四三 | 四一〇、三四六 | 一、〇〇二、四八九 |
| 一九二七・一・一日現在 | 七三四、〇七二 | 三九七、一八四 | 一、一三一、二五六 |

千九百二十二年所謂「レニン黨員大募集を」やつた年もやつと二萬五千四百人しか增加しなかつたのが、その後加速度に增加し、二十四、五兩年の如き未曾有の黨勢擴張を見た。と

ところが二十六年度になつて膨脹率は著しく衰退し、その反面に黨籍除名、脱黨者が急に多くなつた。すなはち

| | 準黨員ニ新規採用數 | 在來正準黨員ニ對スル同上率 | 準黨員ヨリ正黨員ニ登用數 | 正黨員ヨリ脱黨、除名 | 正黨員純增加數 | 準黨員ヨリ脱黨、除名者一萬人ニ對シ | 準黨員純增減數 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一九二四年度 | 三一六千人 | 五一・二% | — | | | | |
| 一九二五年度 | 三二二 | 三六・一 | 二二三千人 | 一四千人 | 二〇九千人 | 四五八人 | 增 八〇千人 |
| 一九二六年度 | 一六七 | 一五・三 | 一五二 | 一〇 | 一四二 | 六八五 | 減 一三 |

右三表によつて正準黨員の增加率は二十六年になつてから、めつきり減つて來たことが明かに判る。この理由について機關紙プラウダは

「二十六年度になつて黨では、徒らに多數の黨員を入黨せしめて黨員の頭數ばかり多くするのは不得策だ、短期間に五千萬人にも達する新黨員に政治的、共產黨的の教育を施して、社會事業の實際に當らせることは困難だといふので、二十六年度には十六萬七千人に入黨を許したのだが、入黨出願者の四十二・六%を詮衡入黨さした譯だ。」

と說明してゐるが、今春の黨勢調査成績につき哈爾賓の一右黨派露紙の素つ破ぬくところによると

「黨勢調査に關する地方機關の報告は、何れも香しからぬ。例へば北高架索では黨籍登錄屆出を爲した者は僅かに五千人で在來の同地方黨員の七・一%に過ぎなかつた。つまり九割三分の黨員は二度と再び共產黨員たることを欲せず、再登錄を止めて自然脱黨したのである。また共產黨のため甚だもつてお氣の毒なことは屆出を欲しない者、卽ち脱黨希望者の五十七・六%が勞働者だつたことである。況んや勤め人階級では再登錄した者は在來の九・四%に過ぎなかつた。

一體不良黨員の尠からぬことはレニン時代からの通弊で、屢々黨內の『大掃除』をやつたの

であるから、不良分子の淘汰も事實だし、また新入黨者の素質精選も嘘ではないが、機關新聞も勞働者黨員の數をもつと增加しないと黨機關に於ける勞働者の勢力を維持することが出來ぬと憂慮してゐるが、共產黨では黨員の半數以上は勞働者たること、といふ大方針が樹てられてゐるのに實際は半數より尠くなつて來たので、この心配は無理もない。此の共產黨々員數の增減及び黨員の素質について黨の領袖、國家政治部議員**モロトフ**が七月二十三日の共產黨及び政府機關紙上で「共產黨の使命」と題して論じた內容は共產黨の近況を窺ふ好資料である。その一部を摘譯すると

昨年度中入黨者が十六萬七千人に過ぎず、前年度に比し增加の度を減じたのは現下の我黨の缺陷の第一である。それに勞働者の入黨率が減退し、產業界の勞働者の入黨率が最近二ケ年間、やつぱり減少し一方、從業員(入黨制限令の設けあり)の入黨が增加してゐるのは、黨勢擴張、調整方法が、黨の要求に添つてゐない結果である。

新經濟政策以來、都會にも村落にも我が共產黨員の隊列を分裂せしむべき幾多の兆候が



生じ、上は最高機關から、下は細胞に至るまで隨所かやうな現象を認め得る。例へば**スイズラン**市の黨務機關の上級委員達は既に一年以上も反共產黨的行動を逞ふし、宛然反過激派團體の觀を呈してゐた。之等は最近處罰されたが、道義上由々しき問題といはねばならぬ。又昨年**イルクーツク**市の要職にある一黨員の非革命的行動の如き、我等はかゝる不健全な現象を一掃するやうに緊禪一番を要する……。

尙ほ全聯邦共產黨々則中、黨員に關する規定の概略を擧げると

第一條　黨員ハ黨ノプログラムヲ認メ、黨ノ機關ノ一トシテ働キ黨則ニ服シ、黨費ヲ分擔スルモノトス

第二條　新黨員ハ準黨員中ヨリ入黨セシム

第三條　入黨紹介者ハ入黨者ノ在黨中ハ黨則ニヨル紹介ノ責任ヲ負フモノトス

第四條　入黨ハ當該細胞(ヤチエイカ)ノ評決ニヨル

第五條　除名ハ當該黨機關ノ總會ノ評決ニヨル

第七條　共產黨員タラントスル者ハ黨ノプログラム、方略ノ習得及ヒ人物試驗ノタメ、準黨員ニ編入ス

第八條　準黨員ノ入黨ハ審査機關及黨委員會ノ決定ニヨル

第九條　準黨員タル期間ハ第一部六ケ月以上、第二部一年以上、第三部二ケ年以上トス

第十條　準黨員ハ其ノ所屬團體ノ公開ノ集會ニ參列スルコトヲ得、但シ投票權ヲ有セズ

第十一條　準黨員ハ普通黨費ヲ納付スヘシ

第八十七條　黨員ノ負擔ハ正、準黨員トモ收入ノ二分ノ一%以上トシ、二分ノ一%、一%、二%、三%ノ四種トス

第八十八條　農民ノ如ク收入不定ノ者ハ縣委員會之ヲ定ム

第八十九條　失業者、社會ノ保護ヲ受クルモノハ黨費ヲ全免ス

第九十條　正、準黨員トモ三ケ月間格別ノ理由ナクシテ黨費ヲ納メサル者ハ總會ニ報告シテ脫黨者ト看做ス

◇　◇　◇



# 不成績なりし

## 共産黨々勢調査

共産黨、青年共産黨の正準黨員が三百萬人もあると、不良分子の混入はまぬがれぬ。のみならず當世大流行の不良青年の中には、青年共産黨員が多いと公表されてゐる。そこで黨ではしば〳〵不良の陶汰をやつて「大掃除」をする。その大掃除をかねて先般から全國的に黨員の「戸口調査」をやつた。左記はその成績について、哈爾賓の一白系露紙が素つ破抜いたものである。

黨勢調査についての地方からの成績報告は、いづれも香ばしくない。例へば北高架索地方では、黨勢調査に際し、黨員たる事を再登錄したのは僅か五千人であつた。この五千人はその地方全黨員の百分の七にしか當らぬ。

共産黨のために最もお氣の毒な悲觀材料は、屆出をせない者、すなはち黨に籍を置くことを欲せない者が、しかも勞働者の中に多かつたことだ。前共産黨員たりし者にして再登錄をせなかつた者の五割八分は勞働者で、農民は三割三分だつたが、勤め人階級の者は一割弱だつた。もう共産黨は眞つ平だと、絶緣した勞働者中の大部分は專

門技術を有し工場などでも重要な地位に据つてゐる者、つまり自分の腕で立派に食つて行ける連中で、これ等が一番、黨のことに冷淡である。

黨勢調査の際に、何故屆出でをせんかと係員が詰問したにたいし、いろ〳〵と振つた答辯書が出てゐる。その二三を擧げて見やう

「自分の妻は神信心家だから、黨の會議に出かける度毎に私を捉えて罵倒する。で調査の當日も一そのこと妻を離緣しでしまうか、それとも脫黨しやう

## 共産黨また内訌

……支那革命運動の一頓挫で……

共産主義的の支那革命運動が、最近大頓挫を來したに就て、第三インターナショナルかと、最期の思案に暮れたほどの大喧嘩をしたので、つい屆出すのが遲れた……

「自分は散歩の時間をもつと餘計に持ちたいのだ。黨に籍を置いて忙がしい目にあつたり、時間外勞働の手當を貰ひたいとは思はない……

「貴公達は黨則を知つてるのか、俺は一年半ももう黨費を納めてゐないよ。黨員たる資格のあらう筈はないじやないか……



部内で、幹部派のブハーリン一派と、反對派のラデツク一派との間に、對支政策上の意見の衝突をなし、其の内訌沙汰はますます深刻になりつゝあるとの報がいろいろと傳はつて來る。現に去る四月中旬に開かれた第四回サウエート大會でも、支那革命問題についてブハーリンは盛んにラデツクを攻擊した。

また現在共産黨の實權を掌握してゐる、彼のスターリンが、全露共産黨中央委員會の承認したところの、支那宣傳員心得書中にも、反對派の對支政策の誤りを指摘し、新聞紙上公々然と發表されてゐる。左記はその概要であるが、共産黨の支那革命にたいする態度方針を窺ふ一資料たるであらう。

反對派は、根本から對支政策を誤つてゐるが、また支那革命の特性を全く理解してもゐない。その上支那革命の今日までの經過も、支那の國際關係にも通ぜないから、かゝる大なる謬見に陷つたのである。反對派は我が十月革命同樣の、急速な進展を、支那革命に要求し、上海の勞働者は、帝國主義者にたいして、何故もつと斷乎たる態度に出なかつたか

と、はなはだ御不滿であるが、これは一九一七年の我が革命當時と現在との國際關係が、まつたく違つてゐることを御存じないからだ。

反對派はまた、今直ちに支那に勞兵會を組織せよと主張するが、そんな必要もなく、またその時機でもない。その主張は、武漢政府に敵對しろといふのか、あるひは、革命國民政府を排斥し、新しい政府を樹立するためにいふのか知らんが、どうも反對派は支那革命の過程を少しも御承知ないから、反つて革命の敵に利益を與ゆるやうな事をしでかさうとする。

また、反對派は、國民黨と共產黨との分離を主張してゐるが、それでなくても、帝國主義者は國民黨から、左傾分子を驅逐しやうとして躍氣になつてゐる際だ、もし分離でもしたら、それこそ共產黨の勢力を殺ぎ、國民黨分裂の因を作り、國民黨の左翼分子を勝利者たらしめることになる。卽ち帝國主義者、軍國主義者の野望を達成せしめるのを手助けするやうなものだ。われらは反對派の對支政策に耳を傾けることは斷じて出來ない。と



# 袖の下が萬事

## 物言ふ共產黨

——レニンの弟がクレムリン宮の高野師直——

高遠の理想に活きんとする共產黨員も、一面には黃金と名譽に憬がるゝの矛盾あり。莫斯科では最近殊に獵官運動が盛んに行はれるやうになり、その代名詞として「拔擢」なる言葉さへ流行してゐる。で、何か柄不相應な地位に、橫道から一足飛びに有りつかうといふ手合は、まづ共產黨機關の秘書役邊を然るべく買收して紹介狀を貰つて、それ〴〵の向きに運動するのが普通のやり口である。一方紹介狀を書く方では本人の人物などは二の次ぎで、只だ袖の下が目當てだから、書くことも金目次第で叮嚀にもなれば、呆氣ないものにもなる。獵官運動で血眼になつてゐる手合は莫斯科にも、レニングラードにもうよ〳〵してゐるが、サテ首尾よく、黃金の力で何かの要職に「拔擢」……大抵は月收八百留以上

のぼろい地位に……されるともう占めたものだ。部下には立派な「專門家」共も澤山ゐるが、そんな連中は顎の先きで、あゝせろ、こうせろとコキ使へる。

◎

月收八百留以上にもならうといふ要職だから官舍なども無論、世の中の住宅難なんぞにお構ひなく、間數だつて少くも五間位ひはある。服裝も無論外國新流行スタイルだ。萬事豪奢な生活が出來る。部下や平民どもが何と吐かさうと、なんとでも嫉め〳〵だ。**プロレタリヤ**の精神？　そんなものは俺達の個人生活とは別ものサ、だ。

◎

露西亞の各縣には、共產黨員の健康診斷所や、黨立療養所なるものが設けられてゐるが、療養所の證明書を持つてゐる者は無料で、國內はもとより、外國の溫泉などに官費で轉地療養することが出來る。デ例へば莫斯科療養所から「國際**ブルジョア**との鬪爭のため心身過勞し健康を損ね云々」の證明書を貰ひ受けるともう此方のもので、普通八千留位ひの大



枚のお手當がチヤンと下がる。**ジノウイエフ**なんかは大頭だけに骨ては三萬留もせしめ、**マルフエイ**、**ヤシエン**の兩人のごときは心身殊の外毀傷せりとの廉をもつて五萬留づつにもありついたものだ。

◎

**クレムリン**宮殿は勞農露西亞の本家本元だけに此の種獵官運動連の出沒がことに激しい。が獻納金の多寡で採否が極るのだから、誰しも一留でも多からんことを期する。從つて最近の相場はまづ二萬留、若くは要路の大官連に行き廻るやうに高價の土產品を持ち込まん限り、とても「拔擢」の見込はない。だから大官連の臨時收入といふものは素晴しい額になる。ところで有象無象の獵官連の採否を極めるのに別に詮衡委員なんていふものが設けてあるわけじやないが、**クレムリン**宮殿內にごろ〳〵してゐる故**レニン**の弟**ウリヤノフ**が、獵官のために日々伺候する連中の名簿を握つてゐるから、この**ウリヤノフ**の擔當事務と、**クレムリン**宮殿內の空氣を知つてゐないと出世の途にありつけぬ。また黨員の戮蠻

や、轉任なども、袖の下なしで盡力してくれるやうな殊勝な幹部は今頃一人だつて居はしない。政黨と黄金とは何處の國だつて附き物だが、共産黨も御多分に洩れず、その惡風がすつかり染み込んでしまつた……とは哈爾賓の社會民主黨系の一露紙の素破抜き記事である。

## 排日記事

「日本は滿洲における鐵道布設に全力を注いでゐる。東支鐵道をも含む滿蒙大鐵道を建設せんとする張作霖の方針は全く日本の指金によるのである。滿洲における日本の出先官憲との間に內蒙の廣大なる地域を日本移民のために割讓せんとする協定が既に成立した。「共産黨機關紙」ブラウダ八月九日）



## 幹部派は共産主義者でない

……共産黨內訌問題の側面觀……

左記は哈爾賓露文ザリヤ紙……中立標榜、非共産主義……に現はれた共産內訌の一側面觀である、一寸要領よく書いてあると思はれるのでこゝに譯載する。

共産黨の內訌沙汰について、從來「スターリン派」と、及び之に對する「反對派」なる文句が使用されて來たが、實際の露西亞の政情からいふと、今日露西亞通とか、共産黨通とかを以て任ずる者は「スターリン黨」對「共産黨」といはねばならないのである。なぜかならば、スターリンもその一味の連中も夙くの昔に共産主義を捨てゝゐるから、主義主張の上から見て、共産主義者でもなければ、マルキストでもない位ひのことは誰でも知つてゐる筈である。

これに就ては在外露西亞人の發行する新聞では屢々報道もしたが、國內の勞働者間には、かやうな見易き事實さへお氣がつかずにゐたが、此頃漸くはつきりし出した。でこの意味から見て反對派の行動は甚だ意義あるものであるが、反對派の主張そのものも矢張り矛盾だらけだ。

●

共産黨員は露西亞統治上幾多の獨占をし

たが、就中政黨の獨占……乃ち共產黨といふ單一政黨の存在の外、如何なる他の政黨團體と雖もその存在を許さぬ……をしてもしこれに反するものはゲー、ペー、ウーをして治安維持法を適用して檢擧し、所罰してゐるのである。

●

永い間、勞働者を欺いてゐた「無產社會の組織」「自由平等」なんていふことも、共產黨員は、到底實行の出來ることではない、實行したら自分達が喰へなくなるといふことに氣がついてゐる。だから共產黨員はいつの間にか國家資本主義に改宗し、上流社會は黨員でもつて構成するやうにした結果、急に威張り出し、成上り者の官僚風が露西亞を風靡するやうになつたのである。だが新國家の新階級はお生憎千篇舊時代のそれと比較して著しく見劣りがする。第一に教育がない。禮節を辨へない。慾深かで、猜疑心が頗る強い……第二に昔のお役人よりもずつとお高く止まつて、昔の樣に議會や、新聞紙上で見られたやうな言論の自由が今では全く與へられてゐない。

●

成る程スターリンはブルジョアではない。無論、國家的大理想家では尙さらない。たゞ露西亞を喰物にする國際主義者の親玉に過ぎない。露西亞に住まして貰つて、露西亞の食物で活かして貰つてゐながら、しかも露西亞の產物を出來る限り少なく產出せしめ、露西亞を早く喰ひ潰さないやうにと、たゞそればかり氣づかつてゐるのである。つまり勞農民は各自銘々必要なだけづゝ働いて喰つて行くやうに、そして自分等共產黨員が安心して生活の出來るやうにと、そればかり苦心してゐるのだから「反對派」の生ずるのは當り前であらう。



●

共產黨がなるべく黨員を增加せしめないやうにと心掛けてゐたところで、一億五千萬人からの國民を統治するのには百萬人からの黨員はどうしても必要である。もと〳〵國民を欺いて政權を掌握してゐる共產黨のことだから、自分等の地位を維持するためには、不平をいふ奴等を片つ端から銃殺するに何の憚かるところがあらう。

メンジンスキー(國家政治保安部長)は今や反對派だらうが、反過激派だらうが、頓と見境ないほど、どいつこいつの容赦なくスターリンの敵と看做して非常手段に訴へてゐるが、藥が利き過ぎて、反つて不安を感じ出した幹部派は、保安部が輕々しく煽動に乘つて反對派を壓迫し過ぎるのはよくないなんかと、此の頃云ひ出して來た。

●

ところで、反對派では、勞銀を上げろ〳〵とばかり主張してゐるが、その增率の財源を何處に求めるかは何ともいつてゐない。又失業者を救濟するために、盛んに工場を建設せろと迫るが、政權を握つてゐるスターリン派にして見ると、勞銀を上げるよりも機械のいゝのを買つたり、產業組合を合理化する方が先決問題だといふ。

また反對派は百姓を虐めると說くが、ス

ターリン側では、税金を納めて呉れたり、小麥を作つて呉れたりするのは百姓だけだから、いくら百姓でも虐めてばかりは居れないと反駁してゐるが、これは尤も至極だしかし反對派だつて負けてはゐない「君達はそんなブルジョア式のことをいふが、そんなら勞働者をどうするか、そんなら見なら、こつちも勞働者を煽動して第二の十月革命をオツ始めるぞ」と喰つてかゝつてゐる始末だから、黨の判証沙汰は仲々片附きつこはない。

## 反革命犯一斑

——哈市赤紙より——

廿六日レニングラード裁判所は、バレマソフ、ソリスキー、ストロエフ及びサモイロフ等反革命家の犯罪證據充分と認め彼等に銃殺を宣告した



## 幹部派と反幹部派の

# 論難應酬

露西亞に於ける所謂幹部派と反對派の軋轢は、トロツキー一派除名前は更なり、其後に於ても愈々熾烈、深刻なるものがある。從つて兩派互ひに論難し辯明する演說等は實に多い。一々其速記錄は眞面目にとても讀んで居れるものではない。で此處には兩派の辯論の中で面白さうなのを三つだけ紹介する。反對派の演說が如何に猛烈に、所謂車夫馬丁式に彌次られてゐるか……幹部派の方も彌次られて居るのかも知れないが、速記錄には現はれて來ない……殊にトロツキーに對しカリーニン御大を始め、幹部派の巨頭連が眞っ赤になつて、馬鹿呼ばはりをしてゐるところなど、我が日比谷の猛者も大いに人意を强らして可なりである。また内証沙汰の激烈さを示す好箇の資料であらうか。

## 日比谷座に劣らぬ

# 論戰彌次

左記は十月革命記念祭前に莫斯科で開かれた黨の或る集會席上のトロツキーの演說と、猛烈な彌

次の模様を傳へた速記錄の一部である。

**トロツキー**「ウランゲル軍將校および軍事的隠謀事件について、是非黑白を明かにするために、討論會の審議に附せんことを求めた余の提議は頭から拒絶されてしまつた……」

**スクウオルツオフ・ステパノフ**「オイ〳〵また始めたのか、いい加減に引っ込め……」

**トロ**「反對派に關係してゐるといふだけで同じ黨員を、反革命機關の事業に參加してゐると謂ゆるのは無法もまた甚だしい。余は一體何者が、何のために斯かる行爲を敢てし、延て黨そのものを過らせるのであるか、その邊の眞相を明かにしなかつたのである。この事件の噂は現に全世界に傳播し、世界は明日にも反革命運動が起るやうに思つて歡喜してゐる有樣でないか、態と公平な態度を示さんがために討論會を開いたほどの諸君が何故に本事件に關する余の辯明を速記錄に掲載せぬやうにするのであるか……」

**スクル弁ブニク**「シエルバコフはどうだ」

**トロ**「まつたく事實無根の事である……重大問題たる……如何に……且つ何故に現在の或



る一派が……」

**スクウオルツオフ・ステパノフ**「一派とは何だ」

**トロ**「ゲ・ペ・ウがろく〳〵調査もしないで、輕卒にも、反對派が反革命機關の事業に參加してゐるなどと揑造的報告をして、黨を欺かうとしたのは何者のためであるか、實に政治的大問題である。これに較べるとその他は第二流いや第十流どころの小事件に過ぎない……」

**チユバリ**「活版所でやつた仕事は第一計畫か」

**トロ**「諸君は我々を中央委員會から放逐しやうとしてゐる、それもよからう、我々は異議を申立てない。しかし幹部そのものが今日では遂に到るべき所に近づきつつあるのだ。すなはち降り坂にあるのであつて、幹部派は黨からムラチコフスキー、セレブリヤコフ、プレヲブラゼンスキー、シヤロフ、サルキス、ウイウオウイチその他の權威者を除名したが、實にこれらの人々だけでも、有力な立派な、眞のレニン黨秘書局を組織して行ける

人々ではないか」（議場騒然）

**ウオロシーロフ**「君等の黨は秘書局といふのか」

**ペトロフスキー**「**メニシエウイキ**の演説じやないか」

**トロ**「これらの被除名者は現在の……議場騒然……スターリン、ブハーリン等の一派すなはちネチヤエフ、シトキコゴリド、ワシーリエフ、シユミツト、フキシエレフなどの有爲の士をゲ・ペ・ウの監獄にぶち込んで、黨をして暴力で過まれる政策を行はしめる結果、國内の**プロレタリヤ**前衛のみならず、世界の**プロレタリヤ**の革命思想を退歩せしめた。前述の諸士は、蔣介石、馮玉祥、ペルロセリ、ヒキクス、ペンチルレツト、クレネツ、シメラリ、ペツペル、ゲレネツ、ウストリヤロフなどと五十歩百歩の徒とは雲泥の違ひがある……」

**ペトロフスキー**「無禮なことを云ふな」

**ウオロシーロフ**「玉石混淆するな一



**トロ**「この一派は約一ケ月に迫つた大會を控へてゐる今日、我々が中央委員會にゐることを煙たがつてゐるのである。それで我々の主義主張を發表せしめなかつた、イヤ我々の主義主張の唱道を妨害しやうとしてゐるのだ……」

**バブシキン**「君の方が妨害者だらう」

**スクルヰブニク**「中央委員會に反抗するやうな演説をなぜ默つて聞いてゐるか」

**ゴロシチエキン**「自惚れが過ぎるぞ」

**トロ**「我々の主張を恐れるのは、民衆を恐れるのと同じである。我々は諸君に對して既に九月八日に、君等の禁壓に頓着なく最後まで主張を枉げないと聲明してゐる。ムラチコフスキー、フキシエレフなどは我々の方針を述べた印刷物を配附して咎められたが、中央委員會や、中央監督委員會内の反對派議員は皆な同じ意見である。のみならず此の點に就ては我々の連帶責任者である……」

**ロモフ**「シチエルバコフも矢張り連帶責任者の一人かい」

**トロ**「幹部派は權力を笠に着て……」

**ステパノフ**「古い文句を並べたてるのはよせ」

**タリベルグ**「嘘つき、自惚れ」

**ウオズグラス**「出鱈目を云ふな」

**タリベルグ**「何が正しい方針だい」

**スクル井ブニク**「穢らはしい」

**ペトロフスキー**「見下げ果てた**メニシエウイキ**奴」

**カリーニン**「小**ブルジョア**過激派奴」

**トロ**「幹部派の者ばかりはコソ〳〵何を相談してゐたのか、我々にはよく判つてゐる。幹部派は暴力の前には何者も頭を下げるものと思つてゐる……」（議場より、社會時報の燒き直ほしはよせとの聲あり）

**ウオズグラス**「トロツキーを掴み出せ、何時までしやべらしても限りがない、もう我慢されぬ」



**トロ**「黨の勞働者は會議に於ても、その眞意を述べることを、暴力の前に遠慮してゐる傾がある。かかる機械的な獨裁專制者が**プロレタリヤ**獨裁國の幹部なんである……」（議場騷然、嘘を云ふな、たわけ奴と云ふ聲あり）

**ロモフ**「體裁のいいことをいふな」

**トロ**「階級の敵に對する威信は何處へやら……しかしまだ黨統制の殼ばかりは殘つてゐる」

**ウオロシーロフ**「伯父さん、もう止めて呉れ、**ルーリ**を讀んだ方が早判りがするよ…」

（註、**ルーリ**紙は伯林發行、社會民主黨の機關露字新聞である）

**トロ**「一見したところスターリン派は勝利者の觀がある、如何にも左はレニングラード、莫斯科から、右は北高架索迄壓倒してゐるやうに見ゆるが、事實は左からも右からもコツ酷く叩かれ、小突かれてゐるのだ……」（議場騷然、默れ、止めろの聲起る）漸く靜まるのを待つて

**トロ**「**プロレタリヤ**の線から、漸次小**ブルジョア**に墮落しつつある幹部派は、全く一定の方針といふものを持たない、政策は常に電光型に動搖し、變化しつつある……」

**ヤロスラウスキー**「君の自己慰藉になるだらう」

**トロ**「如何なる方針を執つたにしろ近き將來右傾は免れない（馬鹿野郎、**メニシエウイキ**、不德漢と呼ぶ者あり）昨日まで農民よ大いに富めよと煽ててゐたかと思ふと、今日では農民壓迫の方針に變つて見たり、勞働者の味方をする積りでか、出し拔けに七時間勞働制を革命記念祭に發表したり（口笛を吹く者あり、議場騷然）常に政策はぐらついてゐるじやないか……」

**チユバリ**「君以上の墮落者は無いぞ」

**トロ**「反對派虐めと、**プロレタリヤ**前衞虐め（議場騷然、トロツキーの言、暫時聞きとれず）今や官僚主義は、官衙の吏員のみならず、勞働者間に滔々としてこの惡風が染み込み

**スヰルビン**「神聖な議政壇上を獸のために汚されてはならぬ……」



**トロ**「今日は千九百十八年時代とは違ふぞと云ふ連中は……（革命の墓守退がれッ、止めッ、引つ込めッ、と呼ぶ者多し）……今日は農民よ儲けよと云ひ、次の日は（騷然）……農民からコンミツションは取れない……」（もう澤山だ、退がれッの聲起る）

**ウオロシーロフ**「恥かしくはないか、もう止せッ……」騷音のため聞き取れず、議長この時休憩を宣したるもトロツキーは何事か演說を續けたが聞き取れなかつた、議員一同席を蹴つて退場す……。

## トロツキー一派は第三勢力の御先棒

左記は幹部派の闘將**ブハーリン**（黨機關紙**プラウダ**主筆）が十一月上旬、**レニングラード**勞働者集會の席上で試みた反對派攻擊演說の一部であるが、前記**トロツキー**の演說に對照し內訌問題の空氣の一部を察知することが出來る。

レニン氏は我が國内に第三勢力を浸潤せしめてはならぬ。もし我が黨内に軋轢を起したら第三勢力はその間隙に乘じて來るだらうと、何時も氣づかつてゐたが、第三勢力の浸潤に對し直接間接力を添へるやうな者があるとすれば、それは非常な不德、罪惡でなければならぬ。然るに我國内には幾多の憂ふべき問題があるが、或る不平分子の如きは若し我が國に戰爭が起つたならば、それに乘じて蜂起すべく、それがために一層内訌を激しくすることにあらゆる機會を利用してゐる。であるから反對派は黨規無視の罪は勿論、プロレタリヤ獨裁の法律を破り、獨裁制度の基礎の一部を破壞し、龜裂を生ぜしめて敵の侵入を容易ならしめんとするが如き學に出づるやうになつたのは大なる罪惡とすべきである。

もし反對派が我國にはプロレタリヤ獨裁が行はれてゐないと云つて不平を抱くのなら問題じやない。それなら君達が勝手に黨を作つていい。そして堂々と議論を戰はさうじやないかと云へば濟むんだが、反對派はプロレタリヤ獨裁が行はれてゐないと云ふだけでなく反動的なことまで口にするやうになつたからもう捨て置き難い。反對派は何故胸襟を披いて語らないのか、徒らに反動時代だとか、獨裁政治の本質はどうだなどと喰つてかかるなどは政友の執るべき態度ではあるまい。



つぎに反對派の軍事的隱謀であるが、彼等が發行した印刷物の中に從來いまだ檢舉されなかつた、しかし近く逮捕することになつてゐる、そして從來警告を與へられてゐた人々の名前が明かに現はれてゐる。今回まで反革命の隱謀がいくらも發覺したが、黨の中央委員會も一般黨員も、これ自己の不德の致すところとして或る時期まで之を發表せないのを至當だと考へてゐたのであるが、過般發覺した事件の調書および、我々に對する誹謗的印刷物の多くが、前述と同じ秘密結社で準備された事は實に想像も及ばなかつたことで、また我が中央委員會の委員中から共謀者を出したなどは誠に呆然たらざるを得ないのである。右秘密印刷所の發覺によつて、そこの勞働者の若干名が我國内で軍事的隱謀を企てんとする一派の間諜であつたことが判明したのである。その中にはコルチヤク時代の陸軍大佐もあり、今逮捕されてゐる共產黨員もあつたが、彼等は反革命的色彩の極めて濃厚な軍

事的隱謀を企ててゐたもので「最後の勝利は我等にある、軍事的行動に訴へて我國を滅亡より救はねばならぬ」など放言しまた我々を目して烏合の衆だと侮辱してゐたのである。

で自分はトロツキーに對して「逮捕された者の中に諸君が釋放を要求した非共產黨員が一人でもゐるか、またそれらの釋放を要求するか」と問ふたところトロツキーは自席から「もし印刷所のことで檢擧されたのなら釋放方を要求する」と答へた、また自分は「もし軍事的隱謀であつたらどうするか」と反問したら「もしそんなことなら勝手に取計つても異存ない」といつたから更に「どつちにも關係があつたらどうするのか」と突つ込むと彼は「君達は替玉を使つたり何かして」と言を鈍ぶらせた。彼等は軍事的隱謀が矢張り自分達の仕事であることを認めてゐるのである。

諸君。問題の審理が濟まない間は反對派に反革命隱謀の罪名を被せることは控へて貰ひたい。我等は今は反對派が故意に我等を中傷しかつ內訌を深めんとする行爲に對してその不德を責めてゐるのである。千九百二十五年、今では反對派の一人となつたカーメネフは



「トロツキーの一派は總ての反共產主義勢力の代表者である」と云つたが、それは今の世の中にもそのまま適用される批評である。反對派は我々を目して奈翁主義者だと中傷するが、それはどんな意味であるか、了解に苦しむ。今日まで奈翁主義と云はれたのは强い力で輿論を壓迫して我意を通した者か團體の事を指したものではないか、我國には共產黨が存在し、百萬の黨員があり、この黨には黨會議で定めた根本方針がある。もつともその外にヤロスラウスキー驛頭で、群衆を集めて不平を訴へるやうな分子（註、トロツキーを指す）もあるが、この少數の不平分子が大多數の輿論を尊重し且つこれを代表せるところの集團に對して奈翁主義だなどと誹謗してゐるのである。かかる連中が我々に向つて「貴公達は黨の精神に反した行動をする、大多數の輿論を無視してゐる」などと放言するのは片腹痛い事ではないか。彼等はヤロスラウスキー驛の飴賣りの廣告のやうな演說をもつて黨の根本方針だと自惚れてゐるのである。反對派はまた「我々は民主的だが貴公達は强奪者だ」と云つてゐるが、大多數の決議を無視したり、自分等の約束を平氣で破ることを以て

自ら民主的だと思つてゐるやうである。つまり反對派なるものはザツトこんな連中であることをお含みを願ひたいのである。で私は諸君に向つて、反對派の或る者が、十月革命記念祭に當つて述べた意見の中から最も傑作なところを讀み上げやう、それは

「サウエート露西亞内では一般にプロレタリヤ革命に對する失望の聲が高まりつつある。農民間には奈翁主義を渇仰する風潮が起つてゐる。すなはち農民革命の勝利を維持して行けるやうな、革命初期時代に於けるが如き强い權力を持つ者の世に出でんことを求むる傾向が農民間に顯著になつて來た——今日では農民は公然と勞働階級に反感を表示するに至つたので、ボリシエウイキ中でも活眼の士はこの傾向を非常に憂慮してゐる。千九百二十五年中カーメネフは既に大農增加の傾向に就き黨に警告をした——今やサウエート國家といふ建物の階下は農民といふ炎が廻はつてゐる。今や「獨裁」を排して民主制を施くことが、露西亞を救ふ唯一の手段であることが益々明かになつたと喝破したところの、故マルトフ氏の言が適中した。我等の執るべき途は唯一つ、すなはち革命を救



ひ、ボリシエウイキ獨裁を打破すべく、極力反ボリシエウイキ宣傳に努め、國内の勞働階級に必要なる抑壓を加へねばならない」

諸君。これじやトロツキー以下の反對派なるものはメニシエウイキと少しも異つたところはない。彼等は表面では左傾を標榜するが、千九百二十三年當時のトロツキーの主張と同じく、メニシエウイキ及び自由派の主張をそのまま續けてゐるのである。彼等はサウエート國家の擁護などは毫も考へてゐない。かやうな反動派に對しサウエート保護などと云つても無駄である。我々は反對派に對して、メニシエウイキに與みして我等に反抗するか、それとも前非を悔ひて我等と行動を共にするか、何れか一つを撰べと要求するのである。

諸君。我等は反對派に誘惑されてゐる勞働者を救ふのが刻下の急務である。いくら統領氣取りしても部下を失つたら何も出來ない。水兵のゐない端西の海軍大將のやうに、反對派の領袖から部下を奪ふことに努めねばならぬ。我等は革命の功勞者たる先輩領袖を窮地に陷れることは忍びないが、勞働階級の幸福のためには致し方がない。我等は勞働者をメニ

シエウイキの水溜の中に陷れやうとする者に斷乎たる處置を執るべきことを明言する…」

## 七時間勞働新制度と
# 反對派の攻擊演說

黨中央委員會および中央監督委員會總會は十月二十一日の會議で、內閣議長ルヰコフ氏の報告した彼の產業五ヶ年計畫の根本方針に關し意見の交換を行つたが、席上反對派の領袖エウドキモフ氏は七時間勞働の新制度に對してのみ反對の演說を試み、幹部派から猛烈な彌次を喰つた。

諸君。中央委員會總會召集前のホンの二三時間前に、我々の手許に配附されたところの意見書を見ると（今頃そんな事を云はんでもいゝ、と呼ぶ者あり）……諸君。私の演說を妨害しないやうに希望します。私は此の意見書の各項に亘り、了解に苦しむ點が多々あるが、その中の一つを述べ、且つ本總會において我々反對派の辯士に與へられた時間が許すならば、他の問題に對しても若干申上げたいと思ふ（貴樣はサツサと要領だけしやべれ、



時間が切れるぞ、と呼ぶ者あり）……七時間勞働制は經濟的にも政治的にも重大な意義を有する問題で——議場騷然——勞働階級にとりて實に大問題と思ふのである（貴樣は七時間制よりももつと經濟的の事を考へ出したのか、と呼ぶ者あり）七時間勞働制は、今一度繰返へして云ふ、本問題は政治上、經濟上の重大問題でありますぞ。然るにだ、一體この問題は何處で審議されたのか、また誰が審議の席に列したのであるか、中央委員會總會はこれを審議しなかつたのか、先達て開かれた職業組合總會はこの問題を審議したのかどうか。事實、黨の多くの機關はこの重大問題の審議に就ては何も知らなかつたのであります（君等がこの問題に反對したからサ、と呼ぶ者あり）妨害は御無用に願ひます……サテ私は第一我黨にとりても、我が勞働階級にとりても、將また我國にとりても、だしぬけに、景物的な、かゝる時機尙早の制度を實施することに大反對を唱へます（景物じやない……十二時間制度でも早く唱へろ、と呼ぶ者あり）黨も勞働階級もかゝる大問題に對しては愼の態度で協議せねばならないのに、事實はこれと反對であつた。私は先づこれを責める

のである。

第二の反對理由は、向後一ケ年を期して行はれんとする本問題を、革命十周年記念の宣言中に交へて布告したその輕卒な點である。我々は勞銀を節約してさらに一層勞働者を壓迫しやうとする方針には反對（嘘つけッ、考へが間違つてる、中傷だなど呼ぶ者あり）するものであります……諸君。中傷とか、嘘つけとか、考へが間違つてるとか、ただがや〳〵と彌次らないで、堂々と反駁してはどうだ。黨およびサウエートの重要なる諸決議を見ると、勞働者の作業能率が高まつたから、七時間勞働にしても勞銀は引上げる計畫だと書いてあるが、作業能率が高まつたことは事實だが、實際は時間外の勞働をやらせるがために能率が高まつたこともまた事實ではないか（嘘いへ、事實じやない、と呼ぶ者あり）そんなら前のサウエート大會の決議を御覽なさい。それでも判らねば今年の三月と四月に作つた政治部の決議文を御覽なさい（血迷ふなと呼ぶ者あり）我々は勞働者の中堅たる青年勞働者を減員して經濟的獲得を放棄し（變質者と呼ぶ者あり）、工場學校の入學者を減じ姙娠



せる女工を顧みず、姙娠、出產の場合の社會保險まで廢止し（出鱈目を云ふな、矛盾だ、など呼ぶ者あり）……現に、人體に有害な工業部内における六時間勞働制度も、實際は九時間も働かせてゐるではないか（餘つ程トロツキーにかぶれたぞ、と呼ぶ者あり）……正々堂々と私の意見を反駁し、私の意見の過ちを指摘してはどうだ……嘘であるといふ證據を示されたい。而してもし我等が今日八時間以上の勞働制違反者の取締方を要求したならば諸君は何とこれに答へられるか（七時間制が氣に喰はないのか、と呼ぶ者あり）一年後に漸次七時間制に移すことを約束しておきながら、今日八時間以上の勞働を強要しつゝある諸君の態度を、勞働者は果して感服してゐるであらうか（勿論感服してゐるよ、と呼ぶ者あり）それはいかぬ。それは諸君の獨斷だ。未だ嘗て勞働者の意見を徵したことがないではないか。勞働者はいきなり括弧附きの景物を貰つたところで反つて迷惑である。だから勞働者が反對するのは無理はない。今日のやうな政策は勞働者の物質的條件、利益に反する事ばかりだから……議場騷然……（社會時報の燒き直ほしはヨセ、嘘だ、と呼ぶ者あ

り）

然らば勞働者の集會に諸君と一緒に行つて見ませうか。彼等の前で諸君は何と云ひ得るか、何故我々を勞働者の集會には入らせないのか（叩き出されたんだらうと呼ぶ者あり）この前の中央委員會の總會では我々の方が諸君よりも有力であつた……笑聲起る……だから此處だけで强いことが云へるのであらう（眞面目にヤレと呼ぶ者あり）諸君こそ不眞面目ではないか。諸君は勞働者を欺き通せると思つてゐるかも知れないが、斯樣な重大問題で勞働者を弄ぶのは不眞面目ではないか、諸君は黨の體面を傷けるものである……議長この時時間の切れたことを注意す……議長ッ、あなたは彼等の發言を制止せなければならぬ。彼等は私をして半分も發言せしめなかつたではありませんか（彼等とは誰のことか、と呼ぶ者あり）彼等とは諸君のことだ。私とはすなはちこの私です（もう時間だ、攪亂しに來たのかなど呼ぶ者あり……）



## 第三インターナショナル

（國際共產主義者同盟略稱コミンテルン）

露西亞で發行した新聞讀者用辭典によると、第三インターナショナルは國際共產主義および、プロレタリヤ階級鬪爭運動の繼承者たり、實行者を以て任ずる第三インターナショナルは、一九一九年莫斯科において、レーニン等の唱導により、社會黨中の純革命分子を以て組織されたものであるが、その組織は一つの國際的共產黨本部下に、各國の分會を統一結合せしむるを目的とし、第一インターナショナルの組織形態に近く、第二インターナショナルと異るところは、第二が特に歐洲の勞働者を組織化せんとするに反し、第三は全世界の勞働者の結合を目的としたものである。

第三インターナショナルはその會議の都度（二十四年までに合せて五回の會議が開かれた）今や資本主義國に於いては、社會主義を實現する機運は熟してゐる、この機運に乘

し、まづもつて政治的權力を勞働者の手に收めねばならぬ、これには國際的プロレタリヤの結合が急務である、との主張を續けて來たのである。

共產インターナショナルは、資本主義的支配を打破し、サウエートの制度を執行し、プロレタリヤの獨裁政治たらしめんとする運動の中樞機關である。

と解說してある。またレーニンの言を藉りると「カウツキー等を主とする第二インターナショナルのために僞造され、軟化されたマルキシズムをしてその眞髓に還元せしめんがために、眞に力ある全世界勞働大衆の統一的組織を實現し、マルキシズムの眞理を實現せしむることを使命として生れたものだ」といふ。

この無產階級の世界的革命運動の根源であり、かつその第一線に起つ鬪爭團體たるこの第三インターナショナルは、組織以來、年々長足の發展をなしたが、一昨年十二月の第十四回共產黨大會でジノウイエフ會長が報告したのによると

今や本團體は五十五の分黨より成つてゐるが、その內二十五黨は白色的恐怖手段を加へ



られる關係上、秘密結社として存在し、五黨は半ば公然と組織されてゐる、かやうなわけで確實な統計は示し難い。我が共產黨の國際的活動舞臺は種々あるが、レーニンはその晩年に、世界革命の運動は一に東洋に於いて決せられると論じたが吾人も同感で、共產インターナショナル及び共產黨中央委員會は東洋に向つて全力を注いだのである。

と演說した。なほ昨年一月一日現在によると、第三インターナショナルに參加してゐる國別、黨員數は左の通りだといふが、日本などのやうに共產黨の結社を許さない國の分は勿論公表されない。（單位一千人）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 露西亞 | 九〇〇 | 米國 | 二五 | 墨太利 | 一 |
| 獨逸 | 一六五 | アルゼンチン | 四 | 白耳義 | 二 |
| 佛國 | 七四 | 智利 | 二 | 加奈陀 | 五 |
| 英國 | 五 | 墨西哥 | 一 | 支那 | 二 |
| チェック | 一〇 | 伊太利 | 二七 | 瑞典 | 四 |
| ジャワ | 二 | | | | |

（終）

# 戰爭と戰爭の危機

## 第三インターナショナルの綱領

……日本の共產黨が、自國の帝國主義者の勢力を輕視せるは不可なりと……

英露斷交以來、露西亞ではますます狂氣の如くに英國を攻擊し、大戰亂勃發の機迫れるを說き、一面その防止運動の宣傳に努めてゐる。左記は去る五月末の第三インターナショナル執行委員總會で決議した「戰爭と戰爭の危機」に關する、黨のテージスの概要であるが、その間の消息の一端を表明してゐると同時に、世界革命運動上の、戰略の如何を窺知するに足る資料と信ずる。

最近、帝國主義の列國を一方とし、露支兩國を一方とする勢力に均衡を失し、戰亂勃發の徵候を生じた。歐洲の牛耳を握れる英國は、對露支聯合軍を組織せんとし、露支兩國は新戰亂の舞臺に供せられんとしてゐる。

が、支那にたいする戰爭はすでに開始されたも同樣で、英國を主とする强大國は、露西亞をもその渦中に引き込まねば已まないから、全亞細亞、太平洋岸に擴大すべき



可能性ある恐るべき戰爭だといはねばならぬ。

英國は世界の反革命の本家であるが、各國でも反革命思想は勢力があつて、伊太利では職業組合をして、ファシスト政府の國家機關たらしめんとの計畫あり。佛國においては軍國主義が盛んに唱導され、老幼男女を問はず國家總動員を行はんとし、日本においては諸學校に軍事教育を實施し、かつ戰時罷業を取締るべき特殊の法律さへ制定されてゐる。獨逸は八時間勞働制度を廢止し、波蘭においても反革命熱の鼓吹に努めつゝある有樣で、今後の戰爭は勞働階級にたいする大戰爭となるであらう。

この戰爭熱鼓吹の、御先棒を勤めてゐるのは各國の社會民主黨員で、就中第二インターナショナルおよび、獨逸、波蘭の同黨員に甚だしい。ブルジョア國政府間の軍縮會議のごときは年中行事で、むしろ軍事擴張を唱導してゐる。

斯樣なありさまであるから、各國の共產黨員は民衆の組織化に努め、村落、職業組合內、陸海軍部內に戰爭排斥の煽動を行はねばならぬ。煽動は戰爭勃發前、今日から直ちに實行すべく、戰爭排斥の秘密結社を組織し、機會あるごとに、民衆にたいして戰爭廢止を宣傳し、民衆を組織し、帝國主義戰を阻止せしめ、その勢を自國內のブルジョア征伐戰に轉ぜしめねばならぬ。

若し帝國主義的戰爭が勃發したならば、參戰國內の共產黨員は直ちに同盟罷工を開始するを要する。勿論これは困難の事業で

はあるが、萬難を排斥して決行せねばならぬ。これがために豫め準備を整へて、戰爭勃發と同時に開始するやうにしておかねばならぬ。

從來各國の共產黨員は、それ〴〵の缺陷をもつてゐた。その缺陷とは

一、今日まで各國の共產黨は、戰爭は遠き將來にして、近き將來に起ることなしとの過まれる見解を下してゐたが、これは過まれるも甚だしい。

二、各國の內政と國際關係とを結びつけることに頗る無力であつたこと。

三、殊に日本と佛國の共產黨員は、自國における帝國主義者の勢力を輕視しをる事、および職業組合、陸海軍部內における宣傳事業に努力の足らざりしこと

ゆえにこれ等の缺陷の匡正には一層の努力を切望する。

## 反革命運動近況

ミンスク市通信

桑市に於て失業勞働者と、ゲ・ペ・ウ部隊との大衝突起り、失業勞働者の示威運動を起した主謀者二百五十名は逮捕され、即日三名の主魁は銃殺された。



# 支那、印度赤化の積極行動を說く

## ——第三インターナショナル會議——

伯林來報によれば、最近第三インターナショナルの會議で、同議長ブハーリンは植民地の赤化方針を述べたが就中、印度及び支那の赤化運動は積極的行動を執るべきことを主張し、支那に對して第三インターナショナルは、地方ブルジョアの外國帝國主義者にたいする反感を利用すべきことを說き、印度に關しては、印度ブルジョアをプロレタリヤ運動に利用することは不可能で、且つ英國に於ける共產黨員が漸減の傾向にあることを嘆き、然し乍ら佛、獨、チエツクスロワキヤに於ては黨員增加の傾向にあり、獨逸は近く勞農政府の樹立を見るに至るやも計られざる狀態にあつて、吾黨に取つては喜ぶべきことである。又ブルジョア諸國の政府が第三インターナショナルを目の敵にしつゝあるのは、とりも直さず我等の勢力が漸次擴張されつゝある反證である。と結んで居る。

◇　◇

# 青年共産黨の悲哀

**註**　左記長章はチエツク・スロワツク國の首府プラーグで發行する「ウオーリヤ・ロシー」誌第四號（本年四月版）に「露西亞の青年赤化運動」と題するアルハンゲリスキーの論文の大要を譯出したものである。元來此のプラーグ市は、社會革命派に屬する露西亞社會主義者の巢窟であつて巴里が帝政派露西亞人の根據地なるに對し、プラーグはエス・エルの策源地として何れも反過激派的劃策を爲し、共産主義攻擊の論陣を張つてゐる處である。しかして社會革命黨は反マルキシズムで、マルキシズムのやうな勞働者の利益擁護を本位としたものでなく、農民を中堅とし、基礎とする國家を創造せんことを主義としてゐるのであるが、ケレンスキーの失脚後一九一七年該黨は三派に分裂し（一）左翼社會革命主義派は一度び共産黨と協同したが間もなく逐はれ（二）中央派はウオルガ流域で反ボリシエウイキ運動を起こし（三）右翼派はコルチヤクの旗擧げで前オムスク政府を組織した。此の右翼派は中央派や左翼派とも不和であるが、ボリシエウイキとは尙ほ更らのこと、極度の反感を持つてゐる。ケレンスキーが此の派の代表人物である。



本ウオーリヤ・ロシー誌は發刊既に六年になる。右翼派は執筆してゐないが、中央派と左翼派が參加し、左翼派からはチエルノフスキー（ケレンスキー政府の農務大臣）が執筆してゐるこの派は條件さへよければ敢てボリシエウイキとも妥協し兼ねまいが、思想的には到底一致しさうにもないと云はれる。

かやうな派の者が執筆した論文であるから、多少感情が加はつてゐるかも知れないが、しかし帝政派の露西亞人が、攻擊せんがために攻擊せんとする論文とは違つて、多大の參考になると思ふ。實は弊社においてもこの論文によつて敎えられた點が尠くなかつた次第である。

# コムソモール

**▲コムソモールと會員**　青年共産黨（略稱**コムソモール**、年齢十四歳以上二十三歳以下の男女青年を會員とす）は、共産黨指導の下に**サウエート**聯邦は勿論、全世界において共産主義の青年闘士を養生し、かつ青年闘士の團結を圖るをその目的とするところの、有力なる共産青年運動の機關である。この**コムソモール**は成規の上から見れば共産黨の機關ではない。**コムソモール**はそれ自身の獨立した規約を有し、その機關を中央、地方に持ち、大會、聯合會議を催ふし、或は國際青年運動との連絡を計る等、共産黨同樣のことを行つてゐるのである。

が、**コムソモール**は全露共産黨の綱領、黨略を承認し、黨の中央、地方團體の指導下に活動し、かつ精神的、物質的の援助を黨から受けてゐるのみならず、**コムソモール**中央委員會に隷屬することに、明瞭に規約に記載されてゐる、すなはち**コムソモール**は事實上、



共産黨の直接指導、監督の下に活動し、黨の決議の實行、普及を援助するところの共産黨の一機關である。

**コムソモール**が民衆的な、大きな團體となつたのは、千九百十九、二十年で、第一回全露**サウエート**大會（十八年十一月）當時、**コムソモール**は、僅か二萬二千人の會員を有するに過ぎなかつた。それが第三回大會（二十年十月）には一躍四十萬人に、第四回大會直前には七十萬二千人に、しかしてその後十九ヶ月して、第七回大會召集の時には百七十五萬人の會員を有するに至り、第六回大會閉會から、第七回大會開會までの間に二倍半……新入會員百萬人に上り、新細胞（**ヤチエイカ**）の數三萬に達した……に增加したのである。

最近の**コムソモール**大會席上、書記長は「日々の入會者約千五百人、**ヤチエイカ**の組織さるゝもの五十に上る」と報告したが、最近二ヶ年間に、以上のごとく急激に增加したのは、農村青年が續々入會するやうになつた結果で、各地における農民組合の組織に伴ひ、農村青年の間にも、各種の團體組織熱が高まり來り、何々文化協會とか、何々模範青年團

とか、種々の名稱を附する青年團が、まるで雨後の筍のやうに、中央露西亞、ウオルガ、ドン、高架索、キルギス、ブリヤートその他に續々と出現したのである。

**▲農村の會員と實質**　しかしながら、これ等の雨後の筍組の團體は大抵は、共產主義とは沒交渉で、中には三ケ月乃至六ケ月、またはセイゼイ一年位はコムソモール細胞たるの外觀を呈しても、多くは、何時の間にか有耶無耶なものになるのであつた。さればこの筍組にたいし、第七回大會でリヤザン縣選出の議員が「かやうな違法なヤチエイカに對し、郡委員會でも注意はしてゐるが、もしその組織を認可せないと、我等のために好ましからざる事件を惹起することが珍らしくない」と愚痴つた、またコムソモール書記長チヤプリンも

「若し我々にして、農村青年をコムソモールに入會させることが出來ないとすれば、彼等農民團體は悉く我等の反對者と化するであらう」

と憂慮したやうに、農民間の團體の增加は、一面ポリシエウイキをして非常な不安を感ぜ



しめてゐることは想像に難くない。

兎に角、コムソモールは廣く農民に門戸を開放したので、第六回大會當時には、コムソモール內の勞働者數は二十萬三千人、すなはち全會員の三十九％だつたのが、第七回大會には勞働青年の會員數は六十萬人を突破したが、全會員にたいする率は却つて三十六、五％に低下したに反し、この期間農業青年のコムソモール會員は三十萬三千人（三十九％）より七十萬人（四十五％）に反比例的にその率は增加……（農業青年會員中の貧農會員の數は十二萬五千人の八％から五十三％に增加）……したのである。

斯樣な勢をもつて農村青年は、農村改良、農民生活改善を唱導したところのコムソモールに向つて、潮のごとくに押し寄せたのであるが、仔細にその實質を檢討すると、これ等の農村青年は、革命時代、農村新成金時代に教育を受けた連中であつて、例の「村落と都會の結合」とか「サウエートの活躍」とか、と戰時共產主義時代に教育を受けた時代の青年連中とは、その精神狀態に相違があるので、同じコムソモール仲間でも、古株と新參

連との色彩は自づと異つてゐる。

**▲浮薄な流行的入會**　以上のやうな精神狀態は、局外者が表面だけ村落を觀察したつて、容易に看破出來るものでなく、またコムソモールの團結力にたいする觀察は、到底皮相の觀たるを免れない。千九百二十六年十二月十八日のイズウエスチヤ（政府機關紙）にかういふ記事があつた。

「自分は或るコムソモール會員に向つて、何故コムソモールに入會したのか？と質問したところが、數名の連中は異口同音に……コムソモールは今の流行だから入會したのだ……と答へた。嘗ては農村の青年の間には細ズボン（所謂ファシスト型）が流行したが、今ではコムソモールが流行物になつた」

と。今時の農村の青年達はコムソモール會員だ、といはれるのが如何にもハイカラであり文明の先驅者ででもあるかに考へて入會するのである。……コムソモールを通じて、都會との連絡往復が出來たり、學術研究會を組織したり、村での公職に就いたり、その他何かしら特典が與へられることを夢想して入會したりするのである。だがコムソモールの肩書をハイカラがつて入會した村の青年達は、一歩進んで共產黨に入會したり、共產黨と團結することは欲せない。

その證據として千九百二十五年一月一日現在の村落コムソモール會員中の共產黨員は〇、七％、又翌年一月一日現在では〇、八％で一年間に〇、一％しか增加してゐないことである。何故かやうに成績が悪いかといふと、一、共產黨に入黨後、新黨員勸誘の成績が上らないことを豫想し、從つて冷遇を受けることを恐れる、二、いろ〳〵な義務を負はされることを恐れる、三、共產黨の政策が一般反農民的なこと等が原因になつてゐる。

註、コムソモール即共產黨員でなく、コムソモール會員中成績良好の者を共產黨に入黨せしめることになつてゐる。



**▲青年心理の激變**　コムソモールの一部たる、都會コムソモールの創立當時のコムソモールは、露西亞革命は無論のこと、全世界にも革命を捲き起してやらうといふ、熱血

的青年の結合であつた。當時その指導者達は「最後の決戰」「サウエート主權は健全なり、全世界を燃やすべき革命の炬火を握れり」……「勞働者を虐待するものを滅ぼせ」……「最後の戰は來た、青年はこの戰爭の洗禮を受けよ」……などの標語を高く、强く叫んだのである。

また實際に都會コムソモールは、戰時共產主義時代、ブルジョア及び富農征伐を標榜し、ポリシエウイキ軍中の射擊兵として、活動したのである。內亂戰にも參加して糧食の運搬を手傳つたり、或は戰鬪員となつて奇兵隊(パルチザン)として奮戰した。此の當時のコムソモールは一身を賭して戰ふを辭せざる氣慨を有してゐたのである。

だがさて、內亂戰も終はり、風雲に乘じて巧みにいゝ口に有り就いた好運兒は結構として、運命に振り落された末派の連中は、何かに有り就けるといふ當が外れ、御用濟みとなつて見れば、自分で自分のパン代のことを心配せねばならない時代になつた。

**譯者註** 革命當時政府より給養を受けし者は三千五百萬人に達した、それを二十二年初頭には六



百萬人に減じた。コムソモールの中に自らパン代を稼がなければならぬ者の出來た所以。

時勢は一變して新經濟政策時代(二十一年)になつた。これがコムソモールの革命的士氣にどれだけ大打擊を與えたか判らぬ。世界的社會革命近きにあり矣、との希望は、共產黨の巨頭連の中でも見限りをつけるものが出來た。新經濟政策は日に日に、非社會主義的傾向を生じ、再び英雄時代……風雲に乘じて、昨の一布衣今日の高官たり得た過渡時代に逆戻りすることは不可能となつた。

時勢の急轉によつて、僥倖的な望みを絕たれたコムソモールはがつたり失望落膽した。失望し、憤慨しても明日のパンは矢張り自分で心配せなければならなくなつた連中は、パンを得る方便のために、時勢の推移とともに方向轉換して、一部は勞働學校や工場學校などに入學し、一部は全力を「有技術者」たる資格取りの方向に傾注した。第六回大會に於けるオホーチンの演說はよく此の間の消息を說明してゐる。曰く

「此の頃の青年は技術を習得し、或は政治教育上の「有資格者」として眞面目に一段改

治事業に參加するために、勉强するやうになつた。以前は工場の青年の如きは資格などは眼中になかつた。彼等は革命が近く起るから、つまらない資格よりも實力が大切だ、技術や學問よりも射擊の方を覺えねばならぬと考へてゐた。而し今日となつては時代が變り、素養がなくては駄目だといふことが判つて來た、だから青年教育の方面に滿足を與へるやうにせねばならぬ。」

と。また共產黨の巨頭ブハーリンも第十四回全露共產黨大會（二十五年十二月）で

「上ッ調子の煽動方法は現代ではもう民衆の心を捉へることは出來ない。青年指導は容易なことだと考へるのは大なる誤りで、諸君がいくら大聲を張り上げて、煽動しやうとしても、青年の心は諸君から遠ざかつて行くばかりだ。」

と黨員を戒めた。また第七回コムソモール大會で或る議員は、

「近頃青年だちがやゝもすれば捨鉢になる者が多くなつたが、また一面には……何時までもコムソモールでもあるまい……コムソモールにながく居つたかつて碌なことはな



い本當の學問せにやならぬ……といつたやうな青年の聲が高くなつたと報告した。」

サウエートの新聞をよく讀んでゐると、實際生活に必要な學問、技術を習得せねばならないといふ、青年の慾求の高まりつつあることがよく判る。青年達は一時は調子にのつてまたいろ〳〵な期待をもつてコムソモールに集中して見た。だがその期待は裏切られた。黨の幹部は勞働民衆に實際必要な教育を授けやうとしない。で遂にはコムソモール會員の中には規定の會費を納めない者や、村の選擧に顏を出さなくなつた者や、規則違反者や、所謂腕力組や、金次第のコムソモールや、經濟戰線の落伍者といふやうな分子が續出するやうになつた。

コムソモールに入會さへすればと、何でも彼でもいゝ事づくめに考へてゐた、當て事が外れた結果、青年達は續々と脫會し始めた。これについて「コムソモール・プラウダ」紙はかう書いてゐる。

「ヤグソン村のヤチエイカで農村の若衆が自分はコムソモールが嫌やになつたから脫會すると鬧出

した。で何故いやになつたかと聞くと、ハイいやになつたと答へた、何故だと重ねて聞くと、いやになつたから、いやだと云つてるじやないかと怒つた。結局ノレンに腕押してあつた。」

またハリコフ市の或る工場ヤチエイカで、コムソモールから除名して貰ひたいと願ひ出た者があつたがその願書にはかう書いてあつた。

「余は遺憾ながら、わがコムソモールはレニン主義より退歩せるものと認めざるを得ない。われ等は今や新成金の勢力に壓倒されてゐる。わがコムソモールには何等の權威がない。右の理由によつて自分は脱會したい。」

と。第七回大會で、會員の團結が鞏固でないといふ問題が起つたときにかういふ報告があつた。

「或る工業中心地では、總數一萬二千人の會員中から四千人脱會した。莫斯科縣では第九回縣大會から、第十回縣大會までの間に一萬七十人の入會者があつたが、その代り一萬二千人が脱會した。また一般的にも此の期間に百萬人の新會員が出來た反面に、脱會者も二十一萬人あつた。」



劇樣な狀態であるため、都會、村落コムソモールは非常に頭を惱め、目下幹部の人選と、全コムソモール機關の「社會主義學校化」に苦心してゐる。共產黨員は、青年の共產主義化、青年間に黨勢擴張、正しきレニン主義に基づく指導、の方針の下に活動をしてゐるがどの程度までボリシエウイキの指導が成績を擧げ得るか、吾人はこれに關して少しく述ぶる處あらんとする。

**▲指導員の不人氣**　第十四回全露共產黨大會（二十五年十二月）で黨の領袖ブハーリンも、コムソモールの指導成績が甚だ不良だと報告したが、實際共產黨コムソモールの指導は、あまりその效果が上つてゐない。コムソモールの第六回大會から第七回大會までの間に、コムソモール中央委員會は二千八百九十人の者を農村青年の指導者として派遣したのであるが、その一部分の者は經濟的待遇が惡いといつて逃げ出した。また村民が勞働組合に反感を持つてゐるので、とても働きが出來ぬといふ口實で引揚げて來たのもある。その外コムソモールの使命を率直に明言する勇氣さへ持たない指導者があるだの、コムソ

モールの使命を自覺せない、修養の足らない、智識の低い連中が指導者顔してやつて來るから排斥されるのだ、だのと露骨な批評も現はれた。また

指導員は大概聞きかじりのいゝ加減なことばかりいつてゐるが、恐らく自分自身でも何の事だか判るまいと思はれるやうな頓珍漢がある。だから何か決議する段になるとヤレ何々は進歩せりだの、ヤレ障碍は除去されたりだの、ヤレ農民の自覺心は向上せりだのとお定まり文句だけしか並べない。

だから多くの農民達は默つちやゐない「貴公共は一生懸命に宣傳ばかりやつて居たまへ百姓は誰も貴公共のいふ事なんか信用する者はないから。貴公共は我こそ共產黨員なりと威張つてゐるが、己れ達はズボンもはかないで歩いてるぞ、村の仕事のためには自分の事なんかほつといても務めてゐる、己れたちの方が本當の共產黨員だよ。」なんて何處ででも百姓に馬鹿にされてゐる、今頃の指導員なんていふ連中は政治問題でも話しすると大局のことはさつぱりお判りにならず、空威張したり、態度がイヤにこせ〳〵して、



とでも人を指導するのなんといふ柄じやない。

などとミリチヤコフとか、シユリマンなどの議員連に、幹部は會議でコツピドクやつつけられる。また指導員は萬事官僚的でいかんといふ。「命令する勿れ」のレニンの標語は行はれてゐない。指導員とコムソモール會員とはまるで主從的關係であつて、個人として何の親愛も融和もない。例へば文書で「コムソモール會員何某を除名し、何某を放逐すべし」……「一週に一回必ず集會を催ふし、非共產黨員も列席せしむべし」……「コムソモール同僚よ、汝等は未來の爲政者なるぞ、汝等は文盲であつてはならぬ。讀書せよ。會議には必ず出頭せよ」……「會費は決して滯納すべからず、會費は一人十哥と定む、何日何時までに遲滯なく委員會に納入すべし」といつたやうに萬事が命令的であるから、會員の反感もそこに起る。

**▲共產黨とコムソモール**　さてコムソモール中に共產黨の勢力がどれだけ扶植されたかといふと、千九百二十四年一月一日現在コムソモール中の共產黨員は九%、四月一

日十・七％に上つてゐたのが、二十五年三月一日八・八％に、二十六年一月一日はコムソモール全會員百五十萬人中。共産黨の正準黨員は十三萬人で、全會員の八・六％に過ぎなくなつた。而も黨籍を有する會員の多數は都會のコムソモール會員で、村落コムソモールにおける共産黨員は前述の如く僅か一％にも達せず百中九十九人までは非共産黨である。すなはち、農村コムソモール中には共産黨の勢力は絶無に近く、共産黨が今まで努力した、農村青年の共産化運動は何等の效果がなく、農村コムソモールに對する政治教育は、殘念ながら有名無實であつたと、ポリシエウイキ自ら結論してゐる。

農村コムソモールに對する政治教育は一體どんなものかといふに、會員が共産黨員の一人と共に、政治に關する書物を朗讀することである。しかし只だ讀むだけなら、敢て黨員を俟たずとも讀めるが、意味が判らないで棒讀みするだけである、しかし肝心の共産黨員が低級とあつては、結局同じことで、自然青年の足は政治教育、朗讀會から遠ざかることになる。でコムソモール會員に、政治なんて無味乾燥な學問であるとの念を抱かしめるのみか、共産主義政治教育の不合理なることを印象づける。



指導者の缺乏はまた青年間に組織された政治研究會にも影響を及ぼし、例へばレニン研究會と稱する團體の如きも漸時會員が減じてゐる。ウクライナ地方のレニン研究會は一時は百三十もあつたが、最近は十一二に減つた。白露西亞でも同樣である。第七回大會でミリチャコフは

「我等の地方ではいゝ政治學校も、政治教育のいゝ教科書もない、コムソモールの七十％は政治教育を理解してゐない。コムソモール會員の多數は小說を耽讀し、殊に青年女子は好んで戀愛小說を讀んでゐる。政治上の書籍なんか手もつけずに返へして來る。技術に關するものでも、青年運動就中、萬國青年運動史の如き、てんで顧みる者もない。」

と歎じアダモフも「我々の處のコムソモール會員は政治學校には努めて通學するが、しかし何故かやうな學問をせねばならぬかを理解してゐるものはない」と報告した。之等の報

苦によつても、共産黨員が常に口にする社會主義の將來なるものは頗る悲觀せざるを得ない。

「我等は今日の事が大切である。我等は今日僅かの金でも欲しいのだ。で如何にしてその金を得べきかといふ考へで一杯だ。それに共産黨員は社會主義を說くが、そんなら何時になつたらその社會主義が實現されるのか、君等は現在の惡いところを廢止せないで、徒らに多くを言ふのみで、實行されたことは何一つとしてないじやないか。」

と青年等はいつてゐる。共産黨の幹部は露西亞に共産主義を植付くべく、第二國民の赤化を重要視してコムソモールを組織したが、適當な指導者がないので、折角のコムソモールも只だ、共産黨と關係ある青年團體だといふまでゝ、表面こそ盲從してゐるが、その內心は決して共産主義に共鳴する團體でないのだから、もし何者か之を巧みに煽動するならば鋒を逆にして反共産黨の有力なる武器になるであらう。斯樣にして青年を味方につけやうとする共産黨の折角の努力も絕望の狀態にあるのである。



**▲コムソモール氣質**　自由平等の新世界創造を夢み、あらゆる舊制度舊道德の破壞を行つたボリシエウイキ領袖の破壞主義、および、理想鄕にたいする憧がれは、第二國民たる革命青年の心理狀態にも著しき變化を生ずるに至つた。「コムソモール詩人」は革命精神の讃歌に努め、鐵の如き堅固なる志操を讃美するが、しかも詩人等が歌ふほど、實際コムソモール青年の精神は堅固なものでも、美しいものでもない。革命時代、種々の標語が眞に應接に遑なきほど、無數に現はれた。また革命によりて露西亞の社會は眞にドン底に墜ちた。舊來の習慣風俗は悉く破壞され、從來權威あり、品位ありと認められた一切は、今や不自然であり、過誤であると唱導されたのである。で總ての外面的の急變化とともに精神方面もまた、これに遲れざらんことを期し、內外共に一致して革命化を競はねばならなかつたのである。

數年前。戰時共産主義時代におけるコムソモール青年の共通性は、破壞主義的氣風であつた。銃を肩にし、機關銃帶を胸にしてゐた時代は、一切を否定しまた、破壞することは

容易の業であつた。だがその時代が過ぎ、銃や彈丸を捨てると共に、すなはち今までの人參湯を捨てゝ茶を飲み、皮衣を脱いで普通のルバシカを着るやうになると、戰時共產主義時代の破壞主義一方の青年は、如何にして新しくなつた社會に處し、如何にして新時代に順應して自己の生活を建設すべきやに就いて、眞面目に考ふるやうになつた。彼等は最早や時代遲れの代物となつた、だが社會の表面からは姿を隱したが、彼等は後輩の青年に遺產として一種のコムソモール氣質を殘していつたのである。

戰時共產主義時代、コムソモールは殺伐、粗暴なる社會の潮流に感化され、社會の進步の潮流に棹して己れの正しい運命を開拓するの能力を缺いでゐた。彼等は樹木を伐り倒ほすことを知つてゐるが、これを以て家屋を建築する技能を有せない。徒らに大言壯語し、禮節を辨えず、粗暴の振舞をすることが、如何にも豪傑であり、英雄であるかに思つた。そして後輩の青年達もその粗暴放逸の言動を眞似、これが英雄たるの資格のやうに考へ違ひをした。現在でもコムソモールの中にその惡風が傳はり殘つてゐて、コムソモールブラウ



ダ紙に一青年の演說として

「ネクタイなんかは、舊時代の遺物だ、犬の頸輪のやうでブルジョア式の惡習慣だ、我等は靑天に頸と胸を擴げて步かねばならぬ。美服を纏ひ、半靴を穿き、高いかがとの短靴を用ゆるなどは極力排斥せねばならぬ。ダンスも絕對にいかぬ。ところがまだ靑年中に、足の運動だといつてダンスを止めない者のあるのは怪しからぬ。我々勞働者はブルジョアの眞似をするために、盛んにダンスをやるために天下を取つたのではない。吾人はブルジョア式の安逸、歡樂を追はんとするが如き惡傾向を須く排斥せねばならぬ。」

といつたやうな記事が現はれたが、ハイカラ排斥の反動として野蠻、粗暴な風が靑年間には、い〳〵事だとして流行し出したのである。

**▲滔々たる惡化墮落**　工場勞働者、就中獨身のコムソモール靑年間には、油の染みた、勞働服を、靴の泥も落とさないで、それで平氣でゐることを殊更ら誇りとするやうな

疊風が起つて來た。彼等の寄宿舍や、部屋は亂雜狼藉を極め、室内はまるでオモチヤ箱を引つくり返へしたる如く、汚れた臭い破れ靴下の一方が、食物の傍らに脱ぎ捨てゝあるかと思ふと、片つ方は机の下にほつてあり、藥罐の尻が石油コンロのために黑びかりしてゐても、何時洗ふことやら。茶椀も皿もコツプも蠅の眞黑にたかるに任かせ、寢巻は汚れて汗くさくて鼻もちもならず、毛布のホコリも拂ふでなく、入浴は三月に一度行くか行かぬか。室内は煙草の煙が濛々とし、安煙草の香りと、汗や油の臭ひと和して堪へ難き一種の瓦斯となつて發散してゐる。

また男女の關係でも同樣で、戀愛卽肉慾なりとする外、人生のあらゆる愛とか、情とかを捨てゝ、たゞそのみにくき方面のみに走る。二十六年十二月四日のプラウダ紙（共產黨機關紙）上、某青年は

女性に關して露骨なる言動を敢てするものは、我等コムソモールの仲間だけであらうか？　我等の詩人は如何に女性を歌つてゐるか？　我等の先驅黨員中には倶樂部入りをする者が果して皆無であらうか？　子供が親の眞似をするのは當然の事ではないか……



と書いたが、革命は新社會の組織を唱導し、青年に與え得べきものも、與え得べからざることも、一切合財與え得べしと青年に約束した。然り而して與え得べかりしものすらも、遂に與ゆることが出來なかつた。ボリシエウイキの經驗は、青年の文化向上には何等の貢獻するところなかりしのみか、莫大な孤兒を社會に發生せしめた、のみならず青年間に滔滔たる自暴自棄的惡風を醸成し、不良青年、飲酒、極端なる利己主義たらしめしむるに至つた。これがコムソモール青年の風紀頽廢の實情である。

「青年を中堅として、從順なる部下として、黨勢を擴張せんとするボリシエウイキの計畫は水泡に歸した。ボリシエウイキは教養ある青年幹部を有してゐない。またそれを有すべき資金もない。內亂時代には士氣が昂つたかも知れない、が現代ではコムソモール青年に期待することは出來ない。英雄主義なんかはもう過去のものだ。我等は自己の責任を感じ、修養に努め、我等は實際社會主義の建設に從事するのであるとの本來の使命を自覺せしめることが肝要だ。」

とは最近のコムソモール中央委員會の會議で一青年が直言したところであるが、これは實際に肝要なことには相違ないが、現代青年がもし痛感してゐることがありとすれば、それは新社會組織の急務の自覺でなくて、ポリシエウイキ獨裁の悲哀である。

共產黨內の所謂「反對派」はかうした青年の意嚮を洞察してゐるので、青年の反ポリシエウイキ的傾向を巧みに、反幹部運動に利用した、例へばレニングラード・コムソモールの如き有力な機關を……反對派は幹部派攻擊には失敗したが、青年を糾合して幹部派に當つたことは、幹部派をして非常に憂慮せしめた。最近ポリシエウイキの內訌で、ブルジヨア的傾向匡正問題から延いて種々な政治的軋轢が生じ、社會主義の變節漢だのなんだのと罵倒が散々繰り返へされたが、その何れが正しいかは別問題として、かくの如き內訌は、共產黨に對するコムソモールの信念を薄らげ、これから延いて共產主義に共鳴しないところの社會の大部分に及ぼす影響は實際に大きいものがあらう。

且又、村落コムソモールは、農民を壓迫するポリシエウイキの政策に對し、その反感は



日に益し助長し、村落の反勞農分子は期せずして團結するに至るべく、今後黨幹部に對し自覺せる農民團が起つた場合、無論コムソモールは決して共產黨に加擔せざるべく、都會コムソモールもまた、共產主義を憎惡する一般國民に味方すべく、コムソモールは今や却つて、共產主義者獨裁治下における一大危險分子たる觀を呈するに至つた。

而し青年は遂に青年である。青年はやはり青年同志握手し、光明を求めて止まざるべく彼等は、自由を求むるも束縛を嫌ひて、實際生活問題を解決せんとするに至るべきは當然で、ブハーリンの敎ゆる「イロハ」も遂には何の權威も有せないやうになるであらう。コムソモールは今日まで大きな過を繰り返へした。しかし過は何時かは必ず匡正される、しかして又、青年達が自己の運命を開拓すべく、目覺めるの日は、遂にポリシエウイキや、共產黨と絕緣するの日であらう。

# 支那革命援助策と共産黨の兩意見

## 一、はしがき

支那革命問題に關し第三インターナショナル部内には未だ曾て意見の一致を見たことがなかつた支那問題の論議が始まると多數派（ブハーリン、スターリン）と反對派（トロツキー、ラデツク）は各々その意見を固持して譲らず、凄じい對立を見せたのであつた。

抑々この兩派意見の相違點はどこにあるか、その各々異る意見は如何なるものであるか、これは露西亞の對支政策を知る上に於て是非究めて置く必要のあることである。この問題に關する著述や論文其他は實に多く反對派の手になつたものは勿論、スターリンの意見書だとか、第三インターナショナル執行委員會に提出された秘密書類、極秘報告書とか、中には五百餘頁に上るものさへある。この中本年國家出版部から發行されたスターリンの著で、『反對派問題』といふ一九二一年から一九二七年までの演說及びその草稿を集めた書によると、この兩者の意見並にその相異點を明かに窺ふことが出來る。以下この著により項を追ふて記述する。



## 二、支那革命の特質及び進行階梯に對する解釋、見解上の相違

支那革命の特質に關して第三インターナショナルの多數派は、支那民衆の壓迫する主要分子は封建制度の遺物であるとの見解を持つて居る。張作霖並に他のすべての督軍及び官僚分子等、これ等封建制度の殘骸を打倒すべく農民革命は起つたのである。而して彼等の民主革命はこれ等封建制度の遺風一掃を期すると共に、併せて帝國主義を敵としたのである。支那に於ける財政、軍事上の權力は彼等帝國主義の手にあり、彼等は自己の存立上封建制度の存續に後援を與へ、支持して居るのであるから、先づ封建制度を打破するには支那に於ける帝國主義を驅逐せねばならぬと主張するのである。斯の如く支那革命は封建打破と帝國主義驅逐の二潮流の合流である、といふ見解を下して居るのであるが、反對派は全く異つた見解をなし、支那に封建的遺物の存在を否定しないまでも、これは問題とするに足らぬとする。而して支那革命の特質は帝國主義諸國と支那の關稅關係にありとし、支

那革命は主として反關税革命運動であり、支那農民革命は何等重大な意義を有しないと云つて居る。卽ち反對派の意見は、支那資本の獨立のための鬪爭であるといふ解釋である。第三インターナショナルの多數派が、帝國主義及び地主に對して行はれる革命だといふ意見とは大いに異つて居る。

## 三、植民地革命としての支那革命の特質及び支那革命と露西亞一九〇五年革命との相違

第三インターナショナルの多數派は、帝國主義諸國と、植民地並に被壓迫民族の國家に於ける革命運動を明に區別して居る。帝國主義諸國のプルジョア分子は他民族國家の虐待者であり、反革命主義者であり、國民主義者であり、國民主義者であるから、こゝに於ての解放運動の氣運醸成は頗る困難である。

植民地、被支配、民族國家に於ては、帝國主義國よりの壓迫が革命の重大原因をなすものであるから、被壓迫民中の國民主義的プルジョアと雖も一定の期間を經れば、帝國主義に



抗爭をすることゝなる。この時この國民主義は解放運動の骨幹となり革命の原動力と化する。故に帝國主義國の革命と植民地に於ける革命運動を混同してはならぬ、といふ見解を持つて居るのである。

反對派は支那革命を一九〇五年の露西亞革命に比較し、當時のボリシエウイキがレニンの指導によつて、一時的の聯合を欲する分子や、自由ブルジョアとの提携を峻拒して進んだ例をたてに取つて、支那に於てもこの露西亞の革命精神を休し、たとへ一時たりとも異分子と提携することや、國民主義ブルジョアと妥協することは絶對に排斥せねばならぬと主張する。

これに對し多數派は、臨機應變の處置として革命の或る階段に於てはある種の妥協をも至當と認めて居る。

又多數派は支那革命を第三期に分けて居る。第一は一般國民的共同戰線、卽ち廣東政府時代で、革命運動が主として外國の帝國主義打破を目標とした時代で、國民主義ブルジョ

アは當時革命運動を支持して居た。第二期はブルジョア民主革命時代で、國民軍が楊子江を放棄し、國民主義ブルジョアが革命から手を引き農民革命が發展し、數百萬の農民が革命舞臺に偉力を顯はした時代、第三期は即ちサウエート革命である。

第一期に於ける共產黨員とブルジョアとの提携は至當で、萬止むを得ざるに出たものである。反對派の一本調子は多數派の執らざる處である。

## 四、支那ブルジョアに對する第三インターナシヨナルの關係

反對派は、支那共產黨と支那ブルジョアの聯合をマルキシズムの違反的行動だと極力攻擊して居るが、多數派はこの聯合を決議文中に次の如く辯解して居る。

ブルジョアとの聯合といつても大ブルジョアとの聯合ではなく、一般資本主義ブルジョア中の一部革命分子との聯合である。こゝに言ふブルジョアは凡ての大ブルジョアではなく、國民主義ブルジョア即ち共產革命請負者を含まぬものである。で第三インターナ



シヨナルは反對派の言ふが如く支那革命請負人とは提携して居ないと、又反對派は、吳佩孚、馮玉祥、孫傳芳、蔣介石等革命將軍は、反動の北方と交戰はしても決してこれは支那革命の發展ではなく、單なる將軍間の勢力爭ひにすぎないと見て居る。ところが多數派は、南支革命軍は支那勞農革命運動の根本勢力であると反駁し、尙スターリンは

一九二六年五六月以前に於ける支那の政情は反動派の天下であつた。然るに本年（一九二七年）夏廣東革命軍は破竹の勢を以て北進し、遂に河北を占領するに至つた。これは決して偶然ではない。何となれば、廣東軍の翳す大旆は軍閥の打倒であり、支那に於ける帝國主義の代理人に對する打擊を明示するものであつて、革命心に燃ゆる勞働者の後援する解放運動としての實を具へて居るからであつた。

と、反對派の所謂る支那の諸將軍の行動は革命とは沒交涉であり、何等革命の進展に貢獻しないものであるとの言を攻擊して居る。

## 五、國民黨と第三インターナショナルとの提携

國民黨に對する方針を決定することに關しては兩派の間に激しい論爭が行はれたが、結局意見の一致を見るに至らなかつた。

反對派は原則上マルキストたる者は壓迫階級の革命との提携を潔しとしないものである。國民黨は若干の壓迫階級を含む團體であるからマルキストの立場から言へばこれと事を共にするのは不法行爲である。かゝる黨派に混入することは主義上許すべからざることである、と主張する。これに對して多數派は、マルキシズムは既にかゝる黨派と提携して革命運動の促進を圖つた例がある。一八四八年獨逸革命當時は、マルクス及びその一派は有名なブルジョア民主同盟と提携し、革命のため共に活動したではないか。國民黨を小ブルジョア黨と認むるのがそも〳〵の誤りである、國民黨は決してブルジョア黨視すべき性質のものではない。露西亞のメニシエウイキやエスエルこそ小ブルジョアであり同時に帝國主義であつたのだ。何となれば彼等は英帝國主義者と軍事的協定を結び、以てトルコ、



ペルシヤ、ガリシヤ其他の國家と戰爭を行つたではないか。國民黨は反帝國主義黨である、メニシエウイキとは根本に於て相違して居る。然るにこれを目してエスエル、メニシエウイキ、帝國主義黨と爲すは、支那國民革命に全然理解を有しない門外漢の觀察と云ふべきである。若し國民黨が帝國主義、小ブルジョア黨化した曉に於ては、支那共產黨は國民黨への入黨を拒絕せねばならぬ。

斯の如く國民黨に對する兩派意見の相違は、勢ひその對支鬪略をも全然異つたものとした。卽ち反對派はマルキシズムの見地より小ブルジョア黨との提携は許容し難いものであるから、國民黨內の純共產分子は卽時脫黨し、これ等のものをして革命運動の中心勢力たる勞兵農代表委員會を組織せしむべきであると主張した。多數派はこれに對して反駁する。勞兵農代表會議ばかりが革命運動の中心勢力ではない。現に國民黨は現政府に對する反抗機關であり、新革命政府組織機關ではないか、反抗機關としてこそ始めて新政府は革命中心勢力たる勞兵農代表化することが出來るのである。と而して多數派は共產黨と國民黨と

は自然的に結合するものと認め、この見地に立つて武漢政府を支持して居る。で多數派は武漢には既に革命政府（反對派はこれを認めない）があるのに今又勞兵會を設けるが如きは二ツの革命主權をを有せしむることになる。尙現在の狀態ではサウエート（勞兵會）はあまりに責任が重すぎるであらう。今支那の勞働者は一ヶ月八乃至十五元位の賃銀で勞働に從事して居る、革命は先づ斯の如き境遇の改善からせねばならぬ。もし勞兵會が設立されるとすれば勞働者達は直ちにブルジョアの打破を叫ぶであらう。然し現在の革命過程はまだそこまで進んでは居ない。といふので多數派は反對派の意見に反し一九二七年夏まで國民黨との絶緣に反對した。而して國民黨部内の共産分子の團結は固より國民黨を母體として漸次共産勢力の扶植に努力せねばならぬと說き、勞兵會組織は時機尙早の一天張りでこれを拒否した。

## 六、支那共産黨の對民衆闘略問題

反對派はその信條に基き、共産黨員たるものは民衆の先頭に立つべきで決して民衆に引



ずられるやうなことがあつてはならぬ。支那革命に於てこれを指導して居るものは國民主義者の團結たる國民黨である。帝國主義を排斥し、軍閥の支配を脱せんとする支那共産黨の使命は國民黨を助けることにはならない。況んやその黨内に武將の參加せるに於てをや、卽ち共産黨は國民黨に引ずられ又支那武將に左右されてはならぬ、斯の如きはマルクス主義者の採るべき戰略ではない。吾等のとるべき道は民衆を指導するにある、そのためには國民黨をサウエートに代へ而して共産黨は民衆の前衞として活動せねばならぬ。と主張して居る。これに對して第三インターナシヨナルの多數派は、

反對派の云ふ民衆の先頭に立てとの標語は尤もである。然しながら後方を整理する能力がなくてどうして先頭に立たれやう、徒らに先頭に立つことばかり考へ、後方を顧みることがなかつたならば、民衆の前進を中絶せしむるに至るが如きことが起るかも知れない。そんなことは絶對にないと誰れが保證し得やう。レニンの指導原理は後方との連絡を保ち、而して前進を行ふべきことを敎へて居る。先頭の命令訓示が後方まで徹底する

様心がけねばならない。であるから支那革命の初期にあつては（廣東時は勞働者農民、智識階級、國民主義、ブルジョア四階級の團結が必要であつた）帝國主義勢を一掃し、後徐ろに革命團體の發達を計るやう指導することが肝要である。支那革命の初期に於て國民黨と手を切るが如きは誤りも亦甚しいと云はねばならぬ。飽くまで國民黨を助け而して革命の進展を期せねばならなかつた。

尙又次の時代卽ち武漢時代に於ても、國民黨がやゝ、左傾したのでこれと提携することは必要であつた。しかし當時は未だサウエート組織を行ふことは不利益であつた。何となれば民衆は武漢政府の無益なことをよく了解して居なかつたからである。もし當時勞兵農代表者會議を設立するとしても、それは民衆から孤立したものであつて何等民衆と連絡のない所謂後方との連絡を失つた先頭部隊となつて了ふと要するに多數派は革命途上常に民衆と密接なる關係を持する樣細心の注意を拂ふのに對し、反對派は急激に革命運動を左傾せしめよと主張するのでえる。



## 七、最近の事件に關する論爭

昨夏から支那に起つた種々の事件のうち、武漢政府と國民黨が共に自ら第三インターナショナルと絶緣するに至つたことに關し、反對派は多數派に對し、云はぬことではないとばかりに食つてかゝつた。支那共產黨と國民黨との絶緣を肯かず、サウエート組織に反對し、武將共に引ずられて居るからこんな結果を招いたのだと攻擊し、「支那革命は全く失敗した」といふ決議文まで發表した。これに對する多數派は、支那革命が全然失敗したとは僞りである。一時的打擊を蒙つたのみで、これは露西亞に於ける一九〇五年革命の失敗と同じやうなものである。そのため革命は十二年間屈從を忍ばねばならなかつたが、それしきのことで悲觀するには及ばない。露西亞では一九一七年には最後の勝利を得たではないか、今回支那革命の失敗も無論一時的のもので、將來の勝利の基となるべき尊い經驗なのである。半年か一年の後には或は勞兵會組織の標語が時機に適したものとして眞面目に議せられる樣な、新革命の機運が釀成せられると信ずる。

支那革命の根本問題は農業革命である。帝國主義の毒牙を驅逐せんとする革命勢力は、その第一目的遂行の上はやがてこの根本の問題をも解決せしむるであらう。と云つて居る。

## 信書の檢閲

ゲーペーウーの各課には、電氣仕掛の開封機が備付けられて居て、封書郵便の六分の一は巧みに開封され一々檢閲する事になつて居る。檢閲がすめば元通り密封して宛名人に配達されるのだが、一度開封されたものかどうだか少しも見分けがつかないといふ。



## ピオネル（少年共産黨）

ピオネルはボーイスカウトに似たものであり、直ちに少年共產黨の話をもつて充てるのは不當かも知れない。しかしピオネルは

勞働者及び農民の少年を將來共產黨員たらしめる目的をもつて、少年時代から教養して、

第二の我々を養生するために青年共產黨が、その弟分の養產機關として組織した純共產黨系のものであるから、少年共產黨と意譯しても差支へあるまい。

此のピオネルは千九百二十二年五月に組織されて以來、今年の五月は滿五年に當る、で全露青年共產黨中央委員會は

わがレニン青年共產黨は、第三國民たる勞農少年のプロレタリヤ教育に貢獻することゝに五ケ年に達した。ピオネルは青年共產黨の豫備隊であるが、彼等はその團中から、勞働階級のために奮鬪する、忠實なる青年共產黨を多數に送りだしたのである。ピオネルは最近も種々な困難に遭遇してゐるが、諸君のなすべきことは多々ある。ピオネル諸君よ奮起せよ。團結を堅くせよ。しかして盛んに青年共產黨に新黨員を送れ。勞働者の事業のために何時にても奮起する準備をなせ

と激勵文を發した。ピオネルは二十三年十月の第六回青年共產黨大會當時には、全國すでに三千の團體と、二十五萬人の團員を算してゐた

が、この大會でもつて、ピオネルの團員數は、青年共產黨員と大體において、同數にしやうと云ふことに決した。昨年七月一日現在では、全國に四千百二十九の團體と、百八十三萬三千人の團員とを算し、青年共產黨員と同數の標準は實行されつゝある。

## 女工數七十五萬人

中央統計局の調査によるとサウエート全工場に勤勞する女工の數は

| 年次 | 人數 | 全勞働者數歩合 |
|---|---|---|
| 一九一二年 | 五五四千人 | 三〇・四% |
| 同 一六年 | 七七二 | 三八・四 |
| 同 二三年 | 四一六 | 二九・五 |
| 同 二四年 | — | 二五・五 |
| 同 二七年一月一日 | 七四三 | 二六・九 |

# 九、サウエート治下の社會問題

# 「サウエート」聯邦社會相の一端

## 一、はしがき

「サ」聯邦に於ては社會施設は充分に完備し、階級の高下も、貧富の差別もなく、人民は愉快に平和なる生活を續けつゝあるかの如く、憧憬措かざる人士もあるが、之れは未知の世界への憧れで、一度「サ」聯邦に旅行したものは慘たる社會制度に驚き、自由も平等もなく、人民は共產政治の壓制の下に呻吟しつゝある事を傳へてゐる、左に社會狀態の一端を述べて參考に供したいと思ふ。

## 二、皇帝（ツアール）とレーニンの相違一〇％

「サ」聯邦は革命後純共產主義を實行したが、とても立行かぬので、新經濟政策、新々

經濟政策と、政策を逐次右傾し、今では國家資本主義の體系となつた事は第一輯で記述した處であるが「皇帝とレーニンの相違一〇%」と云ふ言葉は此の現象を諷したものである。

「サ」聯邦では革命後禁酒を斷行したが、酒を生命とする國民には、寸時も酒を絶つことは出來ぬ、從つて惡酒を密造して僅かに慾望を充たしてゐたが、「サ」政權も唯一の收入たる酒稅が徵れない事は、財政不如意のロシヤとしては頗る苦痛である。そこでウオツカ（火酒）を國營で販賣する事になり、最近其酒精量を三〇%より四〇%に增加した、此事に就てレーニングラードの或る新聞が次のやうな記事を掲げた。

或る時地獄でレーニンと皇帝とが偶然落ち合つた。久し振りの挨拶を交した後、皇帝はレーニンに向ひ――お前はウオツカの酒精分を四〇%にしたと云ふぢやないか、俺の時代には五〇%であつたが……そうしてみると結局お前の時代と俺の時代とは一〇%の相違だね――



又共產黨極左派の或會合で、現在共產主義の宣傳を猛烈に行つたら世界中でどの國が一番早く革命を起すだろうと云ふ質問があつた時、それは本家本元の「サ」聯邦が一番早く革命を起すであらうと云つた。

## 三、物價騰貴

「サ」聯邦を旅行する外國人が、第一に驚く事は物價の高い事である、特に工業生產品の價はベラボーに高い、先づ物價の高い事から云へば世界一と云つても差支ない。又物價が高いのみならず品物が少く、一番不足してゐるものは織物類で、織物店の前には購客が列をなしてゐる有樣である。從つて、服裝の流行とか、趣向とか云ふ慾望よりも、先づ着ればよいと云ふ程度である。但共產黨員の妻君等は相當派手な服裝をしてゐる。一般に織物、工業生產品は、日本の三倍位で、外國製の反物の如きは、一米三十留もする。

右の如き狀態だから「サ」聯邦の各都市は少しも晴れやかな處がなく、常に重い氣分が

充滿して居る。帝政時代全盛を極めたレニングラードの銀座通りとも云ふべきネヴァ通は火の消えた樣で往昔の繁華の跡は名殘りなく消えて、各商店のウインドウには賣れ殘りの品が陳列してあるかの觀を呈してゐる。

物價の騰貴及不足は要するに革命に依つて國家の生產能力が極度に低下した事が起因してゐるが、其の他種々の原因がある。其の一つは大部分の商業が國營となつた爲め役人の商業となり、之等役人のため莫大なる經費を要し、官僚的な役人では商賣が圓滑に行かぬ爲めである。實際買手は購買組合、國營商業部等の役人が不親切で、官僚的な爲め、少し物價は高いが個人の小商店に行つて品を求める樣になる。次に工業の大部分が國營になつて、此國營工業も、やはり役人のため多額の經費を要し、生產品は自然高價にならざるを得ない。

この物價の騰貴は直接人民の生活に關係する事で、特に農產物に比し工業生產品が破格の高値を示して居る關係で、農民は「サ」政權に對して非常なる不平を抱くに至つた。そ



こで政權は數年來物價の引下げに一意專心努力してゐるが、中々其の效果が揚らない。それは當然の事で、工場、其他の生產機關は革命後十年間使ひ古されて殆んど修繕や改築が出來てゐないからである。

先に「サ」聯邦は物價の一割方の引下を命令したが其實行は中々六ケ敷く商店は賣れ行きの惡い品物ばかし物價を下げ、生活必需品は中々下げぬのみならず物價一割引下の爲かへつてその品質が一割下つたと各新聞がつぶやいて居る。

物價引下に關し面白い笑話がある。

◇

甲、——おい、世間の評判ぢや今年の秋には物價をまた一割下げるそうだよ！

乙、——お前は買物など出來る柄じやないがそれでも何か買はうと思つて

ゐるのか！

甲、――物價の引下げなんて、唯だ聞いてさえも惡い氣はしないからな

あ！

これは、物價の引下げが少し位出來ても、購買力の減退せる農民には一寸手出しができない事を諷したものである。又次の短篇は物價騰貴に次いで如何に食料拂底を來してゐるかの一端が窺はれる。

◇

――ペテルスの言葉――

吾人はレーニン及びトロツキーの股肱である、ペテルスの語りし言葉を紹介しやう。ドンのロストフ地方の勞働者代表が、市長であるペテルスに、勞働者は飢餓に瀕しつゝ



在るを訴へ出た時、ペテルスは、

――勝手な事をホザクな、何が飢餓か、ロストフの汚水溜に殘物と廢物が充滿してゐるではないか……莫斯科を知つてゐるか、汚水溜は何處も空だ掃除した樣に一物も殘つてゐない、斯くてこそ飢餓だ。

その時若しロストフの勞働者が次の樣に答へたならば、ペテルスは如何に回答したであらうか。

――未だ外にも充滿してゐる汚水溜が有りますぜ、サウエート政府の食糧庫も眼れ、破れる程孕んでゐますぜ！

が唯一人ペテルスの暴言に對して言葉さへ出すものがなかつた。我に權能を與ふれば、

「斯は不正なり、斯の如き言質や忘却すべからず……」

と號外を發行して少年兒童や、彼等宣傳員を街區に高唱分布せしめるであらう。

――市内の汚水溜が充滿してゐるのに何故勞働者が飢餓を訴えるのか――

ペテルスは如何なる方法で、食料拂底の緩和をなすであらう。

サウエート露西亞の勞働者には三級或ひは四級の階級に差別がある。頭株に位する者は、共產勞働者で、最上の美味を與へられ、頭株の食ひ殘しの鯡の頭、ソーセージの皮等を奪ひ合ふのが次級の普通勞働者である。馬鈴薯の皮、馬骨の足を嚙り、殘物を掃除するのが、第三級のプルヂュアなり。

我若し文筆家に非らずして、監獄吏であつたなら、ペテルスが監獄に捕えられた時、愉快な生活と、スープを與へ、山海の珍味をも加えるであらう、しかし彼は、空腹を訴えないで、

―汚水溜の充滿してゐる間は腹は減らぬ――と、答えるであらう。

ペテルスの獻立が左記のやうなものであつたなら

付出し……靴磨きクリーム、鑵詰の空鑵、卵の殼

スープ……濃厚な石鹼の洗濯汁、灰落し汁に煙草の吸殼と包紙の混入せるもの



魚……鯡の脊骨に菌の生えたもの

肉……鼠の腐體

青物……青腐れした野菜

鳥肉……古婦人帽（ボンネット）の鳥の毛

甘味食……林檎の皮

ペテルスは喜んで之を受けるであらう、何故なれば巨人ナポレオン或ひはスーヲロフ又はピョトル大帝等も共同炊事釜より啄ばむを辭せなかつた。されば我が國のナポレオンも共同釜である汚水溜の美味に舌打し乍ら歡賞するであらう。（アウエルチエンコ作）

## 四、失業者

プロレタリアート萬能の「サ」聯邦に失業者がありそうな筈が無い樣に考へられるが、事實はそうでない。至る處の公園や停車場に、失業者がごろ〳〵してゐる、政府は失業救

濟機關として勞働取引所（職業紹介所）や失業保險で、失業の救濟には大いに努力してゐるが、之等の恩惠に浴するものは極く少數と見えて、政府の發表する處に依れば、百二十五萬人の失業者が居る。これも政府の發表で事實は尙これ以上に上るであらう、只共產黨員の失業者は殆んど無い。これは共產黨員は就職の優先權を持つて居るからである。

「サ」聯邦の失業者に多い事を諷した笑話を二三揭げてみる。

◇

失業者、或る街の角で、その子供に向ひ

—昔は此處に巡査が立つて居たものだよ

—今はなぜ立つてゐないの？　やつぱし淘汰されちやつたの！

◇

——弔　辭——

死去の報に接し深甚の同情を表し申し候就ては葬儀は定めし社會保險部負擔にて御執行の事と相成るべく、且つ故人が生前受領するに至らざりし退職手當も多額支給さるべくと信じ此儀御安心ありて然るべしと存候尙小生は半年以上の失業者にて有之この際故人の後任たり得べき樣御盡力の儀併せて涙ながらに御願申上度此の如くに御座候

◇

之れは失業者の多い事と、併せて退職手當等は中々手に入らぬ事を諷したもので、友人の死去直後、其後釜に就職せんとする處に、人心の廢頽と深刻味がある。



## 五、孤　　兒

失業より以上「サ」聯邦に於て仕末の惡いものは孤兒である。

露西亞共產國內には四千百ケ所の孤兒院があつて三十五萬人の孤兒を收容して居ると稱されてゐるが、尙此外民間に亡命的生活をしてゐるのが二十五萬もあつて、合計六十萬餘の多數を算してゐる。これを革命前の三萬人に比べると實に二十倍の增加である。この六

十萬餘は千九百二十一年から出來たもので、之等の者を全部收容すると一年に八千五百萬留の巨費を要するので政府が如何に焦慮しても、力及ばず國内至る處に、公園と云はず、共同便所と云はず、停車場に或は街頭に襤褸を纏ひ裸足で乞食の如き孤兒が無數に逍遙てゐる事は外國人旅行者の奇異の感に打たれる處である。

此等の孤兒は、コソ泥をやり、列車中の泥棒を働き、或は群をなして通行人に金品を強要し、時には婦女を弄び、社會の秩序、風紀を亂してゐるが、彼等の半面を語る一つの話がある。

或る露人醫師が孤兒院から、十三歳になる男兒を貰つて養育しやうとしたが、第二日目に其の子供は、孤兒院の方が好いから歸して呉れと願つた。其理由を聞けば、孤兒院には女の子の友達があつて、一緒に寢るから淋しくない、もしその女の子も貰つて來て呉れるなら此處に居ても良いと答えたとの事である。

右の様で、「サ」政權も彼等孤兒の救濟には、全力を注ぎ、新聞紙の全面を費し其の救濟



を論じ、又孤兒救濟の爲の切手迄發行しつゝある。

## 六、住宅難

政府の高官で共産黨員たる猶太人の外は、全部酷い住宅難に苦しんでゐる。其原因は農産物が安くて、農村が不景氣な爲、都會に人の集中した事と、今一つは革命戰の爲めに破壞せられた家屋が修理もせず、新築もしないで放置されてゐるからである。

先般施行せられた戸口調査の結果各地での、住宅難の慘狀がすつかり暴露したが、之は殊に工業地帶乃至は鑛業地方に甚しく、莫斯科紙上に報ぜられた二三の事實に依つて、その一般を窺ふに足る、左記は「經濟生活」紙の一節である。

各地の都市工業地帶では、三四坪の小屋に十五六人の勞働者が起居して居る處は無數にあつて、之等の勞働者の中には誰が一體家主であるかさへ知らぬものは稀でない。彼等は家賃にあらずして座席料を支拂つて住んでゐる。そして彼等は誰であるか、また何

處から來たのであるかさえも知らぬ、こんな小屋で勞働者は三回交代に眠る、そして三四坪の場所に十五六人位寢る事等は到底信じ難いが之が事實であるから驚く。又ウエルドロフスク市の如きは、住宅が不足の結果、町端れに泥小屋の一大村落が現出した。こんな例は無數で、戸口調査員は到る處の勞働者の住居で、不潔と、煙と、濕氣とで、息苦しさに面喰はされた。

工業地帶の住宅難を述べたが一般都市も同樣で一人一室以上を持つ事は殆んど不可能である。物價騰貴の折柄、此の一室でさへついたてを立てゝ人に貸してゐる。

住宅難で面白い現象は淫賣である。淫賣婦は多數居るが、彼等は自己の部屋がない、と云つて宿屋に泊るには身元證明書がなければ宿泊せしめないので、自動車を利用する者が增加してきた。自動車疾走中の淫賣は蓋し露都の特有である。

風紀紊亂の事の序に附記するが、ハルピン露字新聞の記事に依れば、女教員が各地共月一回の檢黴を受けてゐる。其の目的は兒童に花柳病の傳播を豫防するにあると、眞か？欺か？ 事實とすれば珍無類の制度と云はねばならぬ。



——笑　話——

新らしい公民が世の中に生れ出て居る現狀だ、新家屋が建つか建たぬかなんて、心配するに及ばぬ。

## 七、官僚主義

「サ」聯邦こそ官僚主義もなく、階級的意識もなく、無差別平等であらうと思ふが中々そうは行かぬものとみえる。反つて反對に官僚主義、階級主義、繁文褥禮は「サ」聯邦の上下を風靡してゐる。當局も之が排除には今春以來國を擧げて、新聞紙上に、演說會に其弊風を痛論し、絶叫してゐる。而も「サ」聯邦は工業も商業も其大部分が國營で、當事者は殆んど官僚ときては國民はたまつたものではない。

階級の差別撤廢は「サ」聯邦の主義政策の重大なる方針であるが、依然として階級差別

は深刻になりつゝある。軍隊の如きも、公式でない場合は、平常上官に敬禮はせぬ事になつて居るが、部下が直屬上官に對する時の如きは非公式の場合でも、おかしい程嚴格で、帝政時代と何等變つた處がない。又貧富の差の如きも、益々甚しく、一方に樓閣を繞つた勞働者があるかと思ふと一方には綺羅星の如く着飾つた共產黨高級者の妻君や、新經濟政策後續出した、ネップマン（成金）がある。

今一つの特徴は「サ」聯邦の演說會である、何をやるにも共產黨大會、或は職業組合大會等と演說討論に浮身をやつし、而も其實行は之れに伴はぬ。朝から晩まで演說會で終止してゐる觀がある。下記の笑話、短文は官僚主義を如實に示してゐる。

——議長と村醫の惱み——

ホホール村（ウヲロネージ縣下の可成りの村）に日はとつぷりと暮れた。

百姓家の小窓には、ランプの光りが凄く照つてゐる、村落サウエート一の道路上には、馬車の跡が白い雪の上に二つの黃いろい線を引いてゐるのが夜目にもハツキリと觀



える。

一ポロ机の中央に村人の提出した書面が擴ろげられてゐる、その机を圍んで、村落サウエート議長イサエフ、村醫セネイコとパウエルアントノーフと云ふ百姓が何か、緊張して聲高らかに話してゐる。

正確な時間がわかり、室內の裝飾にもなるからとの理由で、昨日イサエフが買つてきたばかりの柱時計の振子が、三人の會話の合間に、チクタクと周圍の靜けさに響いて行く。

村醫のセネイコは難問題が、どうしても解決し切れない。いくら考へても決心がつかねとつぷやいた。

—何あに構ふもんか、この規則通り實行し樣ぢやないか、この村は人口一萬人以上だし、ねえ君、毎日一人や二人の人間は死ぬんだぜ。そうぢやないか、病人を己れ一人でとても診られるもんぢやない。死因調査報告なんか、己がどうして出されるもん

か、解剖でもしたらわかるかもしれないがね……ところでこの解剖はこゝから三十五
露里もあるウオロネーヂ市の檢死委員の外、行ふ權利がないし……どうせ其處へ行つ
ても四の五のぬかしてオイソレとやつて呉れる譯でもなし、しかも年中出張ばかりし
てやがる男だ、行つたつて駄目かも知れぬ……おまけに解剖がうまく濟んでも納棺許
可は早くて五六日、大抵は二三週間もたゝねば下がらぬときてるだろう……然しだ、
己れが違法的解剖をやつたとなると村の奴等もなんとか言ふだろうし、困つたものだ
……汗をふきふき沈心したり考へ直したり村醫はためいきをつくばかりである。
發言權を持つてゐないパウエルアントノーフは絶望の極に達した人間のする樣な表情
で頭を低頭垂(うなだ)れて何も言はぬ。彼は醫務部の書面がなくては、死んだ赤坊の葬式が出せ
ぬので、困つてゐると云ふ事だけは彼れの顏色でも、村醫の口振りでも察する事が出來
る。

よくある事だ、秋の收穫が忙しい時にとても醫者の許に赤坊を抱へて百姓の婦等が行



つては居られぬ、冬になつて赤ん坊が死んで、サウエートへ埋葬の許可證を貰ひに行く
と、サウエートは村醫を呼びにやつて、村醫が、赤ん坊を生前診た事があるかを調べて、
診た事がないと檢死委員の解剖を乞はねばならぬ。忙しい時にはどちらも出來る仕事で
はない。あまり手續きが面倒な爲め、百姓は祕密で埋葬する、ところがヘタをやつて發
覺すれば刑事犯として懲役やら、罰金やらこれ又恐ろしい事になる。
こんな問題が起るので村落サウエートで、今三人が眼前の問題解決に、頭を惱ましてゐ
る。

議長のイサエフは村醫が何んとか規則を、此の男に有利に解釋してくれぬかと種々頭
を惱まし、數回繰り返し條文を讀んで見るが、やはりそれには明文があるので、仕方が
ない。

第一條　人口一萬人以上を有する村落住民の死亡屆は戸籍法第三十九條に照らし醫務
委員の死亡に關する事實、即ち理由認定證書相添へ縣保險部に屆出でなさしむるも

のとす

第二條　認定證書は死者を生前診察せる醫師、裁判所檢死委員又は其の指定する醫師委員より死者に交附せしむるものとす

サウエートの戸外はヒツソリと更けて行く、室内では十二時過迄三人の男がサウエート聯邦規定第一二八條の解釋に頭を惱ましてゐるのである。異口同音に彼等は一九二五年六月十八日附人民保健省布告だけで、こんな條文の出ない前は何事もなくすんだものだが、困つた事だとタメイキをつくばかりである。

◆

――ランプ一個に請求書六十六通――

ロストフ市に官僚主義排斥の親玉で、レーニンの名を冠してレニマステルスカヤと稱する鐵道組立工場があるが、レーニンの名のみつけたゞけで官僚主義病、既でに膏肓に喰入つてるが、右の工場の情況は、毎日出勤する職工の重なる仕事は署名する事で、大



抵毎日署名を要する請求書が千五百通程机上に推高く積まれてゐるが、豆ランプの惹で、二瓦位の目方のものが入要の場合は請求書六通、ランプ一箇は六十六通、燈芯一本は四通と云つたやうな具合で、一日には尠くとも千五百枚以上の請求書に署名せなくてはならぬ。

この工場で一ケ月使ふ請求書を縱に列べると十一基米突で、請求書作製係四十二人、處理係十六人計算係十二人が、掛り切りでこの仕事に從事してゐる。

國營服物製造工場での請求書も、鐵道組立工場に劣らず嚴格で、而もその上更らに見取圖・雛型、見本が必要で、例へば槌の柄が折れた場合新らしい柄を請求するには、柄の明細圖を提出さゝれる、だから物品請求の場合は一定の規則に基き明細な圖面を作製し、請求書に添へて出すのであるが、こんな繁雜な手續きを根氣良く繰返してゐる。

後架索鐵道の某課長は機械油配給係に對し、機關手に渡す油を記帳する爲に特に一冊の帳簿を備付けるやう命じており、チフリス市で發行する勞働新聞の記事に依ると機關

手が油を注入せる旨を驛長が記帳を終へざる間は發車せしめず、之がための燃料の不經濟などは眼中に置いてゐない。

かくの如く書類作製に依然腐心してゐるが、まだ出勤退社に對し一々命令書を交附するまでには至つて居らぬやうだ。

スターリングラード企業本社では、文書局を新設し、タイピストのために特別室を設け業務書類は一切下書を局に提出せしめ、局は謄寫の請求毎に、これが決議をなし、更らにタイピストに交附し、タイピストは初めに作製の上、係長に送狀を添へて提出すると云ふ順序で、決してタイプライターで打つて出來上つた文書を直接課長に手渡すことは許されない。

かゝる繁文縟禮を上下擧つて興味あることゝして勵行して居るがこんな具合では到底短日月に官僚風は一掃される見込みはないものと言はねばならぬ。（莫斯科イズウエスチヤ紙）



◇

## ――老母の齒――

ケルチンスキー警備第一大隊長某はサウエートの忠實なる役人である。或る日彼が隊長として勤務してゐるエリトウインギン村に、彼の妻の母が尋ねてきた。

老婆は一見壯健のやうではあるが、三本しか殘つてゐない齒では不自由であり不健康の爲、娘の夫がサウエートの役人であるを幸ひ、保健部に義齒をして貰ふ事を賴みにきたのだつた。彼は早速其の週の土曜日を利用して保健部に出頭した、保健部長は彼に姑の義齒執行に關する委員會議開催の願書を提出せしめた、彼は老婆と妻に向つて今日の話しをして、遠からず新らしい齒の出來る事を喜んだ。

その後、いくら待てども、何の通知も受けなかつた。彼は三週間目の或る日、四時の巡回を終りし時、保健部長と出會はした、彼は過日上申の件の回答を求めた時、

――お前の母は、下齒無き故、申出の件は却下する。しかし會議の決定書丈けは貝へるか

ら、醫師の許に持參した上、再び委員會の決議を乞ふべし。

彼は仕方なしに、此の旨を母に傳へた。そして村から二十里もある醫師の町に母を遣はした。翌日歸つてきた母は、悲しそうに彼に訴へた。

—妾のたつた三本の齒の內の、大切な一本を拔き取らなければ、新らしい齒を義れる事が出來ないのだつて！困つた事だ。

彼は再び、母を醫師の許に遣し一齒を拔き取らしめた、醫師は老婆に向つて、

—一週間後に再び來れ、後の一齒も拔き取るべし—

かくして、最後の一齒をも拔き取られて老婆は涙ながらに彼に物語つた。

—とうとう最後の一齒迄拔き取られたが新らしい齒は與へられなかつた。妾は最後の一齒を惜しみて隱匿しやうと思つたが、斯くては赤軍隊長であるお前の母として、サウエート政府に申譯ないと思ひ止つた……醫師は又妾が痛味無く拔き取つて呉れと賴んだにも拘はらず、失神せんばかりの手術をした。それから新齒を與へるからと待たしてゐた



が、委員は來らず、仕方なしに隣室に入つて行つた其處には、富有らしい人が聲高らかに話し合つてゐる。間もなく一人の委員が來りて、一人々々の腔內を檢査して最後に妾に向つて「お前は若返りたきか」と尋ねた。妾は「若返り度くはないが喰するに不自由なれば」と答へた。保健部に行くべしと書信を與へた。妾は全市を巡つてようやく、以前郵便局であつた保健部を探し當てた。保健部長は妾に何歲なりやと尋ねた。そして妾の年を聞いて、ウフ、と笑を洩した後厳かに「見よ汝より年少くして既に齒牙に缺けたる者少からず、而も彼等は義齒さゝる者少し彼等に比較すればお前は齒牙頗る多き方なり。」

妾は到々新らしい齒を與へられず、斯くして最後の一本もなくなつてしまつた。

彼等の苦心も、願書も總ては、徒らに、三本の齒を拔き取られる準備に終つしてまつた。（コリツオフ）

官僚主義を一掃せよと云ふが、一掃されてしまつた曉は一體誰の處にも頼みに行く相手がなくなるではないか

◇

重いものを背負ふよりも、おひげの塵でも拂ふ方が、よほど背骨が曲る

◇

七度紹介書類が來たら、一度回答せよ

◇

—あの鳥打帽子を被つて居る奴は何物だ？

—あれはやはり俺達の工場で働いてゐる勞働者だ

—中折帽子を被つてゐる奴は？

—あれか、あれは勞働者の御醫で、めしを食つてゐる。ネップマン（成金）さー

◇



## 八、ゲー・ペー・ウー

「サ」聯邦には一種特別なる組織を有するゲー、ペー、ウー（國家保安部）と稱する警察制度がある。此ゲー、ペー、ウーは、他の國の樣な警察とは全く其趣を異にし歩、騎、砲、工兵等の組織を有し、全「サ」聯邦に約十五萬人の多數を備へてゐる。其の目的は政治的經濟的、反革命運動、間諜及匪賊の取締にある。若し「サ」聯邦の人民で政權や共產主義の惡口でも云ふものなら、直に此ゲー、ペー、ウーのために酷い目にやられる、革命後に於ては、此ゲー、ペー、ウーは一審もなしに些細の罪人を血祭りとしたのみならず、處によつては數百人を反革命の罪名の下に銃殺した事は稀らしくもなかつた。現今ではそれ程でもないが、依然相當に人民に對し壓迫を加へてゐる、又外國人等が露國を旅行する場合は常に、此のゲー、ペー、ウーが尾行して些細の事にも係らず投獄した例は最近でも度々ある事である。

何故如斯き峻烈なる警察制度に依つて、人民を壓迫しつゝあるかと云ふに、未だ「サ」聯邦内には政權に對する不平分子の反革命運動が全く終息せぬからである。

## 九、不自由

「サ」聯邦を旅行すると、官吏と云はず勞働者と云はず、殆んど全部が、異口同音に「サ」聯邦の不自由さを、吾々に泣くが如く訴へる。自由平等をモットーとする國として一寸受取れぬ感があるが、事實は彼等の叫ぶが如く頗る不自由で、手も足も出ないと云ふも過言ではあるまい。

言論、出版、結社、集會の如きは憲法では無條件に自由である事を明記してゐるが、共産政策に共鳴する言論出版以外は全々許さぬ、集會、結社は一としてない、新聞は全部政權か、共産黨の御用新聞のみで、出版物は悉く國營である。集會に於ては討論病に罹つた連中が終日共産主義以内の小範圍を出でない雜然とした議論をして居るに過ぎぬ。若し之



れ以外に脱線する時は忽ち、ゲー、ペー、ウーの手に引かれて行かれなければならない。

新聞に至つては頗る振つてゐる。政府が飛行機の宣傳をしやうと思つたら、全紙面を飛行機の宣傳に埋めて、一週間以上も連載して讀者の事等は問題にしない。之等の寄附金募集の如きも、半强制的で某が寄附すれば、此人は他に寄附すべき人を二人紹介しなければならぬ。又その紹介せられた人は、二人の寄附者を紹介する責任があるのである。かくして寄附者を增すのみならず、寄附者は新聞紙上の赤欄と稱する處に其の人名を載せ、未だ寄附しないものは、黑欄と稱する處に人名を載せて寄附を强要すのである。之等は各人の自由意志を壓迫する甚だしい一例である。

通信も國家の獨占であつて、タス通信がその御用を勤めてゐるが、國内に入る通信も、外國への通信も總てを是が握つてゐる、他國への通信は檢閲しなければ外へは出さない。それだから「サ」聯邦では「電話機一つ」と悪口を云つてゐる、「サ」聯邦の新聞紙出版物を見る時は、大いに割引して讀まなければ、その眞相を知る事が出來ぬ理で、殆んど政權

の提燈持が大部分を占めてゐるからである。

其他選擧に於ても猛烈なる選擧干渉を加へ、共産黨若くは之が同情者でなければ、當選する事は稀である。

外國人が「サ」聯邦の各所を見物したくても、色々の難癖をつけて決して見せた事はない。全々秘密主義を保つてゐる、或は外國人に各所を見せぬ事は、秘密にあらずして、ありだらしない社會相を外國人に暴露せぬ爲かも知れぬ。

## 一〇、宗　教

共産主義は唯物主義で宗教の如きは全々認めない、そこで「宗教は人體の阿片なり」の標語を掲し革命後宗教の撲滅に努めた。教會を沒收して之を青年の集會のために解放し、或は僧徒を虐殺し、宗教上の休日を廢し、革命戰の休日を設けた。處が世界に於て最も、信仰心旺盛であつた露國人に宗教の信仰を停止する事は不可能事で、社會の經濟狀態が混



亂し、人心の動搖を來すにつれて、益々宗教熱が旺盛になる一方である。之には政權も手のつけようがなく、今では全く宗教撲滅運動は停止して、其儘放置して居る。そこで勞働者の如きは革命休日の外、宗教上の休日も休んで從來の如く酒を呑んだり歌つたりするやうになつた。

◇

——笑　話——

將に息を引取らんとしつゝあるサウエート役人涙にむせびつゝ臨終に馳せつけた愛妻に向つて

—おゝ神よ……と云ひかけて

—「左樣なら」—と壁の方を向いて息を引取つた

◇

出生祝ひの文

忠實なる貴君の戰友たる妻君には今般勞働階級のため神の加護を蒙る事なく、男兒を分娩せられ且阿片的臭味を有する洗禮によらず令息に革命的命名式を行はるゝ趣拜承し第二國際共產青年のため萬歲を唱へ申候、インターナショナル歌を唯今より起立して高唱し祝賀の意を表し度候故之にて擱筆可仕候

筆者附記　帝政時代は誕生には必ず宗教上の儀式を行つたのである。（終）

## 小麥買ひに四百人も行列

近衞の勞働新聞によると、莫斯科穀物販賣部の各賣店の前には、小麥その他を買ふために順番を待つ人々の群が、多いときには四百人も堵列してゐることがあり、開店前二、三時間も前から門前市をなすの惨狀であると。



# 悲慘なる孤兒と救濟難

歐洲戰爭から引續いて革命となり、諸方に內亂が起り、或は外國軍隊と戰つたり、千九百二十一年の大饑饉に見舞はれたりした露西亞では、一千萬人の國民が戰死し、病死し、餓死し、殺戮されたと云はれてゐる、多數の孤寡孤獨のできたのは無理はない。で、歐洲戰爭前三萬人しかなかつた孤兒の數が、十八年は七萬五千人、十九年は十二萬五千人、二十年は四十萬人、二十一年には大饑饉のために六十萬人といふ數に殖えた。

ところで最近は、どうかと云ふと昨年の春も最高裁判所長はりどんなに內輪に見ても、孤兒の數は四十萬人より少いことはない、これを惡く收容して救濟しやうとすれば一年に八千五百萬留からの巨費を要する、ゆゑに先づ住み家もなく彼方の軒下、此方の樹陰に犬の如くに寢起きし、東に西に漂浪してゐる、もつとも憐れな者を救濟するとしても、その數が四萬人はあらうから、これだけでも四百ケ所の孤

だが、共產黨員と雖も慈善家ばかりではない、のみならず孤兒の憐れさもさることながら、自分等自身が誰しも物質的に惠まれてゐないのだから、ツイ財布の口が開きかねる……もつとも、英國の炭鑛夫の總同盟罷工の時などは、總罷工の鑛夫等が各方面から受けた援助金總計千八百八十五萬留（露貨に機算して）の內、サウエート聯邦の勞働者が、職業組合同盟の手で送つた援助金は、驚くなかれ千百五十萬留で、總額の六割一分にも當つた、しかもその金たるや、銘々の勞銀の內から百分の一づゝとか天引され、腹の裡では吾しからうが、口前だけは、世界のプロレタリヤ運動のためにとか何とか、立派に投げ出したのである……だのに自國民の、悲慘なる孤兒にたいしては、一向に知らぬ顏の半兵衛らしい。

同じ苦しい懐から出す金なら、例へ罷工中と雖も、事實自分等よりも貧澤な生活をしてゐる英國の鑛夫に贈るよりも、先づ憐れな同胞に頒ち與へるのが當然のやうに思はれるが、サウエート流ではさう云ふ論理はなり立たぬと見え、一昨年中全國から醵出された孤



兒院と、年に一千萬留の經費を要する、國庫は孤兒救濟のために、鄙からぬ金を出してゐるが、職業組合員も、も少し奮發してもらひたい、八百萬人の組合員が出してくれゝば、一年に一留と少しづゝ各自が醵出すれば四萬人は救へるじやないか

と新聞紙上に檄した。昨年初頭露西亞共和國內だけでも、四千百ケ所の孤兒院があつて、三十五萬人ほど收容してゐた、がその僅か收容しきれないで、乞食生活をしてゐるのが二十五萬と註せられた、すなはち全國では六十萬人より下ることは決してないと報ぜられたものである。

されば、悲慘な人道問題、重大な社會問題として就中共產黨の機關紙プラウダの如きは、先年來……殊に昨春來この問題のため、每日廣い紙面を割愛し、孤兒の悲慘なる狀況に關する記事や、寫眞、繪畫を掲げて一般の同情に訴へ、また救濟基金寄附者の姓名、金額を廣告して、今日までなほ根氣よくこれを續けてゐるが、外の新聞もまた決して冷淡でない。

兒救濟寄附金は、僅か百六十萬留に過ぎなかつたことが公表されてゐる。

八千五百萬留も必要だといふのに、百六十萬留では御話しにならぬ。あれだけ日々宣傳しでもかやうな貧弱な成績だから、政府ではたう〳〵昨年末から「孤兒救濟特別郵便切手」といふのを賣り出した、この珍切手は十カペークと二十カペークの兩種で、一般の書信と、書留に貼用し、前者は子供の肖像一人、後者は二人を描き、その廻はりに「孤兒に」と認めてあるが、此の切手の賣上の中から二カペーク宛救濟基金に繰込まれることになつてゐる。

今年の五月中旬頃の狀態として發表された所によると、聯邦内の孤兒總數三十萬人、その内孤兒院に收容されてゐるのは二十萬人で、あとの十萬人は救濟の手の及ばぬ連中だとある、これについて彼のレーニン未亡人、クループスカヤ女史は

孤兒、貧困兒の救濟問題は、勞働民衆が深甚の注意を拂はねばならぬ大問題である。現在では勞働者の家族は、子供の世話などしてをれなくなつた、母親が稼ぎに出かけた



跡では、幼稚園のない處では、だれも子供の世話する者がない、また工場内にある幼稚園も、小學校も今では、優秀な技術を有し、高い給料を貰つてゐる從業員の子供だけしか收容されず。一般勞働者の子供は相手にされない。

といつたが去年の春から一年の間に孤兒が半減したとの發表が事實としても、現在の三十萬人は、なほ戰前の十倍である。

身に襤褸をまとひ、素足で、まつたくの乞食生活をしてゐる孤兒が、露西亞の都會地、村落に、隨時隨處、今でも無數にゐることは多くの實況目擊者の眉をひそめて物語るところであり、共產黨や、政府機關新聞紙上の寫眞や、繪畫が今でも常にわれ〳〵に、その悲慘さを髣髴せしむるところである。

今、露西亞には昔ながらの極度の生活難が殘されてゐる外、その外住宅難、不良青年の跳梁、醫療難、就職難、などが重大な社會問題として當局の頭痛の種であるが、この孤兒の問題もおそらくは玆數年の間は緩和されまいと云はれてゐる。

# 厄介な失業者問題

……失業者の實數二百萬人以上に達せん……

サウエート聯邦内の失業者問題は、やはり昔も今も重大な社會問題として厄介がられてゐる。聯邦内には二百五六十ケ所の職業紹介所があつて、失業した者は求職の目的で、そこに登錄するがその登錄失業者の數だけでも、二十四年四月は百三十七萬人、二十六年四月は百十八萬人であつたが、今年の一月には百二十七萬人に增加した。

失業者の多い、またその增加する最大原因として當局の說明するのを聞くと

一、農村の過剩人口の都會集中の弊が容易に匡正できざること

一、これら農村出身の、無技能的、筋肉勞働者の蝟集を消化し得る程、都會の工業はまだ發達してゐないこと

一、昨秋來の經濟界の恐慌とその結果各方面とも經費節約、冗員淘汰を斷行したゝめ失



業者が增加したこと

等であるらしい。ところで現在サウエート聯邦内で、官、公、私營の管理工業（發動機を備へ十五人以上の勞働者を使用するもの、發動機を備へずとも三十人以上の勞働者を使用するもの、を管理工業と稱し之に該當するものは私營工業といへども、國家がその生產をコントロールすることになつてゐる）に從事する勞働者の總數は一千三十萬人（昨年は九百八十萬人）だといふから、その一割以上のものがいつも失業してゐるわけであるが、失業者の半數は女子で、四割は筋肉勞働者だといふ。また大都會ほど失業者が多く、莫斯科でも、レニングラードでも全數の一割四分に上つてゐる。

で、これら失業者の救濟方法としては、國家から給與を受けつゝあるもの八萬人餘（一人あたり一日一留七十五哥）で、その三割三分は女、また社會保險局から、失業保險を受けるものは平均四十萬人で、大概六—九ケ月の期間で、一人當りが昨年十月は十六留ばかりであつたが、それでも昨年中の拂出し保險總額は四千五百萬留、今年は六千四百萬留の

見込である。この外、國庫からの失業者救濟費が八百十萬留、豫算面に計上してある。

ところが前記百二十七萬人の失業者といふのは、職業組合員にして、職業紹介所に登記した者の數のみである。四五十の都市で調べたのによると、職業組合に加盟しない勞働者にして、日常一般の勞働に從事してゐるのが、全勞働者の四割三分位ひあるといふから、職業紹介所に登記せない者をも合せると、現在でも全聯盟内には、どうしても二百萬人以上の失業者があるだらうといふ。かやうな實況だから失業者問題が、社會的、國家的にすこぶる厄介視されてゐるのは當然のことであらう。



## サウエート社會の大脅威

# フリガン問題の考察

●

サウエート露西亞社會の全般、都鄙を通じフリガンなる獨特の蠻風が古來から殘つて居り、それが近年非常に烈しくなつた。一體フリガンなる言葉は無賴漢、暴漢の意であるが、年齢は十七八歳から二十五歳位ひまでの青年男女が大部分だといふから、不良青年と意譯しても差支へあるまい。そのフリガンなるものは、元は單獨的な惡戯、亂暴であつたのが近年著しく惡虐、野蠻、殘忍性を帶びて來た。且また段々と集團的、徒黨的、組織的に變つて來た。田舍でこそ不良少女は一%に過ぎないといふが、都會地例へば莫斯科では十八%は女だといふからフリガンの惡業蠻行も多種多樣であらうが、輪姦事件が非常に多いのであるから、如何に社會の秩序が脅威され、良民がこれに惱まされてゐるかが想像される。

昨年の春から秋にかけてサウエートの各新聞紙はこの問題に就いて實に盛んに八釜しく論議し、報道した、例へば

「最近勞農の各新聞紙上にはほとんど毎日のやうに、村落は勿論、大都會の中でさへ種々な暴行沙汰がいよいよ以て盛んになつて來たことが報ぜられてゐる。赤色新聞の記事によると最近七ケ月間レニングラード及同縣内の暴行事件は一萬二千件に上つたといふ此の事件の内には無論小事件も含まれて居やうが、しかも一般的に此の惡風が如何に盛んになつたかを立派に立證してゐる。政府が鋭意國民の文化向上に努力せるに拘はらず、此の種の惡風が根絶しないのは遺憾である。

露西亞共和國首相代理レジヤワ氏が主張してゐるやうに、此の種の非國民的行爲に對しては斷乎たる制裁を加へ、サウエート社會の不安を一掃せねばならぬ。又刑法學者ジリセンスキー氏は、主義としては死刑の適用を欲しないが、斯樣な犯罪に對しては極刑を課せねばならない。從つて刑法の補修が行はれるだらうと語つたといふが、非常の場合



には非常の手段を必要とするから、サウエート當局も社會的の禍根を除くためには必ず非常の手段を執るであらう。

●

とはサウエート露西亞におけるフリガンの惡業蠻行がます〳〵甚だしくなつたに就き、昨年十月哈爾賓の赤系一露紙に現はれた社說の一章である。實際露西亞共和國だけでも、昨年一月から四月までの間にフリガンの暴行事件が十五萬件に達した。レニングラード市内だけでも昨春から半年の間に司法官廳で取扱つた事件は一萬二千件。莫斯科市内でも昨夏三ケ月間に九千二百件のフリガン事件の裁判があつた。

斯のごとく當時露西亞の都鄙を通じ、滔々たる惡風をなし、良民ことに婦女子を[illegible]しめ、官憲を手こずらせ、從つて世論は暫くの間はまことに囂々として喧しきものがあつた。で當局は昨年六月刑法第百七十六條を改正し

初犯又は輕罪の者は三ケ月

再犯以上又は重罪の者は二ケ年以内の懲役に處することゝしたが、斯樣ななま優しいことでは滔々たる惡風は防げない。昨年以來司法警察の取締上の權限を擴張し、或は嚴重なる命令を發したりして、これが防止に努めたが事件はます〳〵增加する一方なので、露西亞共和國の內閣議長代理レジャ「民法この種の事件の最も多いレニングラード執行委員會に對し「勞農國家の前衛たる勞働者の風紀取締を嚴重にするためにフリガンに對しては社會保護上の非常手段たる銃殺の極刑をも適用せよ」といふ峻烈な命令さへ發した。また九月末には司法、內務、文部その他關係官廳、社會團體の代表者をもつてフリガン取締特別委員會を設け、一方內務省の各行政機關代表者會議はフリガン退治の具體的方策として、

一、職業組合その他の社會團體に對し積極的助力を命ずること

一、各市會に取締委員を設けること

一、村落には夜番を設けしめること



一、フリガンの跋扈もつとも甚だしき地方は地方軍憲と共同取締機關を設けしめること

一、地方行政機關をして一層フリガン取締に留意せしめること

一、民警のフリガン取締上の權限を擴張すること

等を決議したりした。

その後、官憲の取締峻烈なため、フリガンの橫行は昨冬から著しく緩和し、新聞の報道も少し下火になつてゐた。しかしながらフリガンが遂に根絕したのでは決してない、現に最近の勞農の新聞紙にも

一、西伯利の都會の或る工場倶樂部で四人のフリガンが素人演藝會の眞最中に一匹の牛を追ひ込み、折角の演藝會を滅茶〳〵にしたのみならず、多數の負傷者を出した

一、莫斯科マリエフ炭燒場人夫共同宿舍の掃除人サウイン及同女の處に田舍から莫斯科見物に來てゐる同鄕のボチーキンは、二十名のフリガンのため輪姦されて生命危篤。同事件を傳へ聞いたランプ工場の女工一同は加害者全部を死刑に處せんことを請願し

た

一、莫斯科郊外工場區域で七人のフリガンが四月から八月末までの間に十五歳の小娘を數回輪姦した事件が發覺し逮捕された

右は最近の一小例に過ぎない。フリガンは相も變らず跋扈して良民を脅威してゐるのである。然らばどうして斯樣な惡風が盛んになつたであらうか。これに就いて社會革命黨の一雜誌はつぎの如き觀察を下したことがある。

青年共產黨員は戰時共產主義時代の殺伐粗暴なる社會の激流に感化され、社會の進步に順應して己れの正しい運命を開拓するの能力を缺いでゐた。彼等は破壞を知りて建設を知らない。徒らに大言壯語し、禮節を辨えず、粗暴の振舞をすることが如何にも豪傑であり、英雄であるかに思つた。そして後輩の青年達もその粗暴放逸の言動を眞似、これが英雄の資格のやうに考へ違ひをした。……ボリシエウイキの經驗は青年の文化向上に何の貢獻するところなかりしのみか、莫大の孤兒を社會に發生せしめたのみならず青年



間に滔々たる自暴自棄的惡風を釀成し、不良青年、醉つ拂ひ、極端なる利己主義を生んだこれが共產青年の風紀頽廢の實情である、と

しかしフリガンの惡風は革命の結果とのみ斷定すべきであらうか、以下聊かこれに就いて論述して見たい。

●

サウエート露西亞には昨年春頃から「對フリガン鬪爭」といふ新しい標語……むしろ新しい熱語が生れ、フリガンの惡風を撲滅するために上下を擧げて苦心し、全般を通じての大きな社會問題の一となつてゐるのである。で莫斯科をはじめ內外の新聞がよく傳へてゐるやうに官憲は時には集團的に檢擧もし、監禁もし、重きに至つては銃殺の極刑に處する位ひにして、大々的なフリガン撲滅手段を講じてゐるが、時代の風潮は致し方のないもので、濱の眞砂のそれのごとく、フリガンの惡業少しも絕えず、依然として社會に深甚なる害毒を流してゐるのである。さればこの社會全般に亘る惡弊が、何故に發生したのである

か、またフリガンとは如何なるものを指すのであるかを解剖することは、現代露西亞の社會相の一面、青年の氣風の一端を知る上においてあながち徒爾ではあるまいと信ずる。

さて、フリガンといふのは如何なる言動を敢てするものに對して附せられる名稱であるか？　といふに、これを個人々々の場合においては「他の人格を認めないで、何等の理由もなく侮辱し、暴行を加ゆる發作狂の一種」ともいふべきもので、例へば往來をも憚らず、婦女子に挑んだり、その着物を汚して快哉を叫んだり、交通を妨害したり、何の恨みも科もない者を撲つたり蹴つたりして豪傑風を吹かしたりする輩のことである。早い話が日本でもよくある青少年の惡戯のもつと惡どい野蠻な、下劣な言動を逞ふする輩のことである、が、かやうな單獨的フリガンも多いが、段々と徒黨的、團體的フリガン化の現象が著しくなつて來たといふ。輪姦沙汰などは各地に頻出してゐる。大衆の中に汚物を投げこんだり、演藝などの大事な時にどつと喧騒し始めたり、苛だしきに至つては荒れ馬を劇場の中に追ひ込んだりして、組織的に倶樂部、劇場、活動寫眞館、公會堂などを襲擊するやう



な蠻風が隨時隨所に增大しつゝあるといふ。

然らばかやうな單獨的、徒黨的惡業蠻風はどうして起つたかといふと、一概にこれを革命の副產物だ、共產主義の直接產物だと片附けるわけにはいかない。フリガンの囚つて起る理由については相當に遠くまた複雜なるものがあるやうだ。無論、革命および革命の進行がフリガンの發達に多大の關係があることは否まれない。また教育程度の低い露西亞、道德觀念の薄らいだサウエートの社會生活においてフリガンが濕氣と黴の關係のやうにして發生したことも爭はれない。だから工場地や村落のやうに無教育な人間の多いところにフリガンの多いのは當然であるが、サウエートフリガンの囚つて起りし淵源に聊か遡つて考究すると、現代のフリガンは昔のサモドール（頑愚）と稱せられた病的精神の系統を引いてゐはせぬかと思はれる。

●

露西亞文學の大家の一人オストロフスキー（一八二三年――一八八〇年）の脚本にはよく

これを描出してゐるが、サモドールもフリガンも個性を無視した暴行たる點において軌を一にしてゐる。サモドールを簡單に說明すると「自分の思つたことは是が非でもやり通す亂暴者で自分の目下に對しては絕對權力を振つて見たがる種類の人間」に對する名稱である。だからサモドールは他人の損害や迷惑などは頓着しない。氣分の惡いときには八方に當り散らす。どこまでも自分の意地、我儘を張り通すためには義理も人情もあつたものじやない。だがフリガンとは違つてこのサモドールは勞働者や農民階級の亂暴者ではなかつた。もつとも百年前の露西亞の勞働者や農民は、今日の樣に社會的に認められてゐなかつたから、その時代世の中に幅を利かせてゐた特殊階級たる「商人階級」を文學者が槍玉に擧げたのであるが、今日オストロフスキーがゐたなら勿論フリガンに就いての面白い脚本が出來て勞農特權階級が筆誅せられてゐるであらう。

今のフリガンの祖先たるサモドールは當時の支配階級であり、或る意味の上流階級たりし商人階級中の無敎育者間に發生した病的現象であつたが、同じ無敎育にしても、まだ現



在の勞働者、農民よりも文化の程度が低かつたにしろ、現在のフリガンの行爲に較べると少しく高尙で、我儘者、横紙破り、横車押しといつた程度のもので、まだフリガンよりは幾分か態のいゝ大馬鹿者扱ひされたものであつた。オストロフスキーはその脚本の中に色々のタイプのサモドールを描出してゐるが、他人の云ふことなんかテンデ聽かない、ただ無暗に威張つて獨りよがりしてゐる或るサモドールのことをこう書いてゐる。

「お前がいくら彼の男に云つたつて駄目の皮サ、彼奴と來た日にや一旦云ひ出したが最後人の云ふ事は耳にはいらない、遮二無二自分の思ひ通りにやる男だ。そして二言目にや俺を誰だと思つてるんだ、この俺に向つて、不埒千萬な奴じやと怒るんだよ、あんな奴に物いふだけ野暮サ、ほつとくに限る、後の祟りが恐ろしいよ……

これなどは今のフリガンとちつとも變らない。いくら敎誨してもひねくれ根性の直らない天の邪鬼は昔ながらに多い。オストロフスキーの書いた喜劇の中にかういふのもある。

「或るサモドールの男が……オイ・ナターシヤ(妻の名)世の中にこの俺を侮辱し得る奴

があると思ふかい、どうじや？

妻――誰れだつてありやしませんよ、世の中にあなたに頭の上る男は一人だつてゐはしませんよ、みんなあなたを恐わがつてゐるんですもの……

サモドールは自分の目下の者にばかり暴威をふるひ威張り散らした。だが亂暴の點ではフリガンも同樣であるが、しかしフリガンの方は相手が目上であらうと、目下であらうと見界ひがつかない猪武者で、この點が先祖と少々違ふ點だといはれる。

●

とにかく、露西亞の下層勞働者、農民間にフリガン的素質、野蠻な氣風は昔から傳はつてゐるのであるが、革命前までは警察の威力によつて大した亂暴狼藉は行はれず、ただ何處の國にもある單なる惡戯で、それも單獨に行はれてゐたもので社會一般の安寧を脅威するほどのものでは決してなかつた。ところが革命の風潮起こり、官憲の壓力漸く緩み、遂に一九〇五年第一革命の時代となつて自由欲求の聲が喧しくなるにつれ、自由とは我儘勝



手放題のことゝ解釋し、革命化した民衆の間にフリガン的行動が一時に流行しだし、一九〇五――六年は現在同樣にフリガンの暴威猖獗、恐ろしい時代相を現出したのであつた。この革命的色彩を帶びたフリガン的暴行のため當時、大地主の邸宅が燒かれたり、工場がブチ壞はされたり、富豪が暴行を受けたりした例は夥だしきもので、莫大の損害に上つたのであるが、しかも未だ徒黨を組んだ團體的フリガンは稀で、また村落におけるフリガンの惡風は一部分に過ぎなかつた。

前記の時代のフリガン風も一九〇七年末には政府の嚴重な取締によつて餘程下火となり、そのまゝ一九一七年の十月革命に及んだ。革命はもとより破壞的のものであるから、革命そのものをフリガン視する反對派の批評はともかくとして、革命のどさくさの間にフリガン的蠻行が全國に盛んに行はれたことは申すまでもないが、昨春來フリガン掃蕩の標語が大々的に叫び出されるまでは、全般を通じての社會的問題としては取扱はれなかつたのである。ところが社會主義的建設も第二期に進み、革命騷ぎがとくに終つて、秩序もだ

んだん正しくなつて來た最近二三年の間に……一時に發生し急に猖獗となつた次第でもあるまいが……少くとも近時フリガン甚だ猖獗なり、須く撲滅せよとの叫びが急に社會人の間にまた官憲の口から公にされ、その對照としてフリガンの惡業蠻行の實例が盛んに發表せられるやうになつたのは何故であらうか？

それは、元來歐西亞國民の大部分は無學文盲で、半未開國である。であるから、質撲、純眞溫良まことに愛すべき美點を多量に持つてゐるが一面に野蠻な血がどこかに流れてゐる。滅多に嗔嘩しないが怒つたらどんな事をするか判らないといふ兩面がある。極端から極端に走りたがる。少々荒つぽい亂暴沙汰には敢て驚きはしないから、單獨的なフリガン位、鼻の先きであしらつてもゐたらうが、近年のやうにフリガンがだん〳〵徒黨を組んで大勢の力で荒れ廻るやうになつて來ると、少々の亂暴には無神經者も遂には憤り出す、恐れ始めることになる。これが近年フリガン問題が八釜しくなつた理由だと一部の識者は觀てゐる。



●

すなはちフリガンが單獨的から集團的になつて來たから大問題化したのであるが、その集團化したに對しては、多くの識者はこれをマルキシズム共產主義に起因すると信じてゐる。その理由は一切の舊道德、舊宗教を排斥し、物質萬能を人間生存の唯一基調とするボリシエウイキの教理が普遍された結果、フリガンの惡風を一層助長し、今その跳梁に惱まされてゐるのは畢竟因果應報だ、ボリシエウイキが家族制度を破壞し、母性尊重を否定し寺院の正式結婚を廢止し、私有を認めないなどと一切の自然の法則、年來の慣習を無視した結果は、滔々として無教育の民衆をフリガン化した。共產主義者が「社會を離れて個人の存在は價値なし」と說けば、愚民は「故に個人に對して暴行するも差支なし」と併し「私有を認めず」と說けば「認められない私有物なら破壞しても掠奪しても宜しからう」と心得る樣になつた……斯樣な風でフリガンの惡風はボリシエウイキによつて一層煽られたのだと認められてゐる。

次にサウエート當局が頗る重大視してゐるフリガン問題中に「文化的フリガン」なるものがある。これは詩人エセニン一派の創造したものであるが、その詩の大部分はフリガンを謳歌し、智識階級の癈頽氣分を助長する種のもので、教育ある階級のフリガン養成に間接に多大の影響を與へてゐる。これが仲々多數の共鳴者を文士中に呼びまた讀者の間に非常の人氣があり、從つて智識階級に多大の感化を與へるので官憲もほつて置けず、取締を始めたらしく、最近莫斯科の新聞には時々エセニン一派を攻擊した記事が現はれてゐる。



狂暴極まりなき

# フリガンの妄狀

ピヨトル・ピリスキー

左記は哈爾賓の非共產、中立系の露紙ザリヤ紙の十一月六日の紙上に發表された長章である、文辭激越なところ尠くないが、またサウエート露西亞の現代的產物たるフリガンの妄狀を說明した好材料であるから、こゝに之を譯載する。

●

巨像サウエート露西亞の容貌は一變して、見にくいフリガン顏になつてしまつた。昔の露西亞人は文豪ゴーゴリが豚の面相に例へて書いたやうに、たゞ喰ひ氣、飲み氣一方の慾張り面にすぎなかつたが、今の露西亞の社會相は口腹の慾ばかりではなく、餓狗が魚骨をあさり、猛鷲が赤子の肉をつゝき喰ひ、また淫慾飽くなき狒狒にも比すべき邪惡强慾の惡

相に變じてしまつたのである。なるほど昔のブルジョアは酒池肉林、口腹慾の限りをつくしたが、まだ今日の如く、所謂自由に名を藉る放縱無節制、あたかも原始時代の人類のごとき、野獸に等しきまでには、若干の距離があつたのである。

ブルジョアを一掃し自由を求めたボリシエウイキは自由ではなく無節制、無拘束な破壞を行なつたのであるが、その破壞と自由は今日では頗る高價なものになつてゐる。サウエート露西亞が今さら破壞の跡始末に頭を惱ましてゐるのは將に因果應報で、例へば今日の露西亞が惱みつゝあるフリガン問題も、本をたゞせば彼等自らが蒔いた種が生へたに過ぎない。その他社會的欠陷の數もこれと同樣で、誰を憾まんやうもないのである。

露西亞は文化の惠みの少い國家である。帝政時代には官僚式の役人の爲に國民の教育は幾多制限が設けられ、新智識を求めんとする露西亞の學者は白馬銀鞍の若殿原の獨占するところであつた。人民共に學問なんか無用の沙汰だ。民をしてよらしむべく、知らしむべからずの政策のために、國民の智能の啓發は出來なかつた。ついで自由を叫び、舊套打破



の大旆を翻したレニンが赤馬に騎して乘り込んで來た。國民が學問の自由のために大に喜んだのも束の間、文化的施設どころか校舍のまはりの草も木も、根こそぎに引きむしり、あらゆる破壞を繰り返へしたのであつた。而して一物も殘さず破壞された荒涼たる砂原、そこには何物も芽生えない。たゞ生じたのはフリガンばかりであつた。

卽ち、新たに巢作つたフリガンの種類を擧げると

「野蠻　公德無視　母性蔑視　放歌高吟　淫猥歌　女の尻追ひ　喧嘩
亂雜　不潔非衞生　發砲　放火　交通妨害　動物虐待　記念碑銅像類
の毀損　郵便箱の破壞　等々」

これは筆者が分類したのではない。また反過激派の新聞から拾ひ上げたのでもない。實はサウエート國家出版部から發行された立派な教育雜誌に掲載されたウラソフ氏の「犯罪諸問題」と題する論文の一節を摘載したのである。がフリガンの全行爲は僅か右の大別的項目では悉くを盡したものではない。斯樣なことはサウエートの人間の眼から見れば、單な

る悪戯の程度に過ぎない、これは同氏の論文中に尙ほ次ぎのやうな項目のあるのでも判る

「兇器を携帶して通行人に危害を加ふる者　動物殺傷　汽罐車に砂礫を投ずる者
電燈、街燈の破壞　電信電話線切斷

●

が同氏も、サウエートの學者だけあつてフリガン問題に腐心しながら、それ以上を列記しないのは物足らないが、幸ひにして他にフリガン通があつて、エ・ズミョフ氏の發表のごときフリガン研究の好資料であることは喜ばしい。たゞ同氏のは性問題ばかりの報告であるが、筆者は各所に强姦、輪姦が絶え間のないといふ社會的現象の忠實なる研究者たる氏の努力を多とし若干その高見を引用紹介するが、氏はこの社會相發生の原因を「家族主義破壞の結果」であるとし

「數世紀の間に形成されたる家族主義および生活組織の破壞は、都會のみならず、村落にも及び「自由戀愛」なるハイカラ思想は百姓家の隅にまで及んで、例へば農村青少



年間に頻りに流行してゐる坐右の銘……汝煙草を喫する勿れ、密造酒を飲む勿れ、たゞより多く女色を漁ることに努力せよ……といふごときは風紀頽廢の一班を知る好材料である。

と、サウエートの研究者はこれに就き「かゝる戀愛、いはば强姦的獸慾的戀愛は農村青年間の流行である」と斷定し更に單獨的强姦よりも團體的輪姦の盛んな一例として左の如きフリガンの談話の一節を記してゐる

「俺は昨日Kと風呂に入りに行つたが、Cの野郎がゐやがつて、俺に得々H孃を强姦した事を話したから、俺はH孃だけはそんな筈はないといつたらCの野郎、何にも彼も白狀しやがつてね、彼の女もその後は博愛主義になつた筈だ。疑ふなら今から出掛けやうといふので七人の仲間で目的を達して來たが、今時の女で俺達の自由にならぬ奴はないとCの野郎威張つてゐたよ

が斯樣な事件はサウエート露西亞では別に物珍らしい事ではない。大概は二十五歳前後の

若者が多いが、中には十一二位ひから女を追ひ廻はす奴もゐれば、五十面した不良もある。かくの如くフリガンが增加したのは自制心が無くなり、良心が痲痺した結果、如何なる蠻行獸慾も恥としなくなつたのである。だから今日サウエート官憲がいくら取締らうとしてもサウエートの社會組織そのものゝ生んだ罪の子であるから、とても匡正することは出來ない。宣傳、煽動のお祭り騷ぎ、失業者の自暴自棄などがこの蠻風助成の原因であるが、ブルジョア征伐にあまり力を入れ過ぎ、破壞時代が長く續いた結果、再び昔日の節制ある青年に立戻らしむることが出來なくなつた。これは都會ばかりではない、農村にも滔々として感染し、幾萬幾千萬の村落青年を墮落せしめ、一度フリガン化した青年は酒色に心を奪はれて、修養などを心掛けない放縱無賴の徒と變ずるのであるが、社會的制裁力の弱い村落であるからフリガンの暴行はます〳〵苦だしく、官吏も充分に取締り得ない、況んや一二の村民がフリガンの惡口でもいつたら直ぐひどく復讐されるので、後の祟りを恐れて誰も文句を云はない。親の小言など蛙の面に水だ。



「たつた一人の男のために
御苦勞さまにも役所の奴等
四十八通の始末書かいた、警察なんかは仲間も同じ
少しもこわいことはない
警察どころか惡魔の神も、恐れる俺等じやないんだよ……

といふ俗謠がフリガン仲間に流行してゐる位ひだ。また

「どうせやるなら思ひきつておやり
行く先きや一つの牢屋の中よ
そのまたお先きは日の照らぬ
我等の住みよい西伯利よ
好んで生れた世じやあるまいし

何をくよ〳〵するもんか

青年もこゝまで墮落すれば、もう完全な無賴漢で、親も、道德も體面も何にもない。放火殺人、强姦なんのそのといふ惡虐無道が本性になる。これは男子ばかりじやない、今では女子の內にも札つきのフリガンが出來、男同樣自暴自棄の傾向がだん〳〵著しくなつて來た。斯くてこれ等男女のその子孫の上に及ぼす精神上の影響や、遺傳はどうであらうか、誠に戰慄すべきものがある。サウエート村落の女子は男子の玩弄物である

「娘よ、うつかり外へは出るな
フリガン野郎が狙つてる
つかまへられたら小鳥も同じ
逃げももがきも出來やせぬ……」

といふ俗謠がある位ひだ。またこんなのもある

「一服すつたらまた出掛けうか
村の娘をひつかけに
もしも親爺がぐずつたら、その時きやこの村燒き拂へ」

フリガンのひどい奴になるとまつたく村を燒き拂ひ兼ねない。サウエート政府から出す規則や法律などは村に來ると白紙同樣なんの値打ちもないのである。でフリガンが官憲を馬鹿にした歌に

「若いときや二度ない元氣を出せよ
打てや殺せや心のまゝに
七人殺したとの俺は
四日の苦役で事濟んだ」



そしてこれ等のフリガンは方々に團體を作り脅喝、强姦、暴行あるひは青年共產黨虐めといつたやうなことを目的として團結し、多くは中央集權主義で、中には團員證を交附する中央委員會さへ設けてある。

尙ほサウエート當局は他にフリガン問題を調査した專門家の報告書の一部を發表してゐるが、この問題はもう調査研究などの時代じやない。惡風の因つて起る根源を正さなければ百の研究も何の效果はない……。

# 十、赤露視察記、手記並評論

# サウエート監獄實驗記

## 日探の嫌疑を受けた

## 印度人の獄中記

左記は千九百二十二年、日本の軍事探偵の嫌疑で、その實は印度獨立運動の手先きとして働かされる爲めに、知多の監獄にブチ込まれて以來近年まで、**サウエート**内の十八ヶ所の監獄、拘留所を轉々し、あらゆる慘苦を嘗め盡した、印度人**クレイシン**氏が、九死一生をえた恐ろしかりし入獄中のことがらを詳細に、伯林の客舍に認めたのを、近着の伯林發行露字新聞がその一端を掲げたものである。

ここに譯出した文中の事柄は可成り古い、しかし筆者が長年日本にゐたこと、日本の軍事探偵の嫌疑だつたこと、莫斯科の獄中で三人の日本人に逢つたこと……これは久保田榮吉氏の獄中記にも何回も記されてゐる……などがあるので、一寸目先きの變つた、讀物として掲載する。

## ◇……はしがき……◇

自分は千九百二十二年一月この方十八ヶ所のサウエート監獄と、拘留所をそれからそれへと、轉々として此の世の中にあり得るあらゆる慘苦を嘗め盡したが、不思議に死にもしないで、伯林に今かうして無事にゐる事の出來るのは、運命の戯れとしてはあまりに殘酷である。自分は印度人であるがために監獄生活中には、他の在監者から忌憚のない話しを聞かされ、そのお蔭で勞農露西亞の裏面の消息がよく判つた。で記憶の失せない間にと、伯林に來てから在露中の見聞を書き續けてゐるのであるが、今日になつて見れば、實際勞農露西亞のソロフカに於けるゲ・ペ・ウの政治犯人拘留所なるものは、此の世ながらの地獄といつても差支へない程で、また自分が見聞したところでは元の露西亞にも、今のサウエート露西亞内にも、國民の政治といふものは全く無くて、殊に現在では、國民はゲ・ペ・ウと第三インターナシヨナル執行機關の奴隷に過ぎないことを併せて斷言して置かねばならない。



## ◇……日本で商賣　知多で逮捕……◇

自分は亞剌比亞の舊家クレイシン家の後裔で、自分の祖先は七百年前に印度に移住して高職に就いたもので、自分は千八百八十七年ボムベイ市に生れたが、二十歳の時に家を飛び出して商業を始め、初めは米國行を志したが都合で日本に渡り、日本で自動車屋を始め、自動車會社の創立委員にもなり、其の内に妻帶もし、業務も擴張し、更らに輸出入商會の看板も掲げて印度、米國、英國、露西亞（哈爾賓）支那其の他の各地との取引を始めたのであるが、千九百二十年になつて當時の政情に鑑み、露西亞との取引は一切中止した。ところがその翌年になつて極東政府と稱する緩衝國が出來、外國との通商協定も出來たので、自分はその首府の知多市には多數の友人があり、その他の都市にもゐるので、商賣上の關係もつけたいと思つて二十二年一月十日極東政府の旅券の査證を受けて、知多市に赴きエルミタヂ旅館に宿を取り、毎日市中を驅け廻はり、友人と逢つたり、商取引を結んで柔毛、

材木、穀物などを滿洲里驛で受取ることにした。斯樣な有樣で一月十七日まで自分は泰平無事に知多市に滯在してゐたのであるが、その晩から運命は忽ち一轉したのである。其の夜自分は友人達から晩餐に招かれ、夜中の四時宿に歸つたのであるが、こゝで一生涯忘れることの出來ない不意の災難が其の朝、自分に降りかゝつたのである。

自分が宿に歸つて、部屋には入ると間もなく、ピストルを手にした三人の露西亞人の警官が不意に闖入して來て自分に「默つてゐろ、騷いぢやいかんぞ」と命じた。露西亞語があまり判らない自分は、一體何の爲めに警官がやつて來たのか、またどう云つていゝのか判らないので、宿の主人を通譯に呼んで警官に尋ねて見たが、何といつても先方は受附けて呉れない。それもその筈、反革命取締の非常委員廳の役人であつたから、いくら自分が申立をしても、また大英帝國の旅券を見せても、彼等は相手にならないで部屋を搜索し、書類などを沒收し、書類だけを除いて部屋を封印してしまつて、自分は引き立てられたのである。疲勞と恐怖とで步行する勇氣も無くなつた自分は馬車に乘せてくれと賴んだが承



知してくれない。馬車賃は自分が拂ふからとまで云つたが頑として聽かない。斯くて自分は雪の街土で幾度か滑りころんで、生れて初めて衞戍司令部に引つ張られたのである。

## ◇……日探の嫌疑

### 銃殺するぞと威嚇……◇

司令部では直ぐに身體檢査を受け、口の中まで覗き込まれた。無論犯罪を構成しさうな物があらう筈はない。が零下五十度といふ酷寒にしかも凍つた地下室にブチ込まれたのであるが、その時の氣持ち、慘憺たる地下室の光景などは、一度體驗した者でなければ判らない。地下室は暖房の設備もなければ、一本のローソクもない眞暗で、そこに自分一人ほうり込まれたのである。

自分は痛憤の餘り一と思ひに死なうかと考へて、帶を解いて首にまきつけた。そして東洋民族の誰もがやるやうに土間にアグラをかいて瞑目すると、家族のことが眼の前にちらつく、そして誰かゞ早まつてはならぬ、短氣を起すなと囁く聲が聞ゆるやうである。

自分は靜かに眼を開いて、自分は印度回々教徒である、我が宗教は如何なる場合にも自殺してはならぬと戒めてある。そして又母のことなどを考ゆると決して死んではならぬと悟つたので首から帶を解いた。

その朝十一時頃自分は訊問室に引き出された。自分は露西亞語が充分でないので、英語の出來る婦人が一々、二十四五歳の青二才の裁判官に通譯してくれた。最初の訊問は

——ダリビユーロー（註、極東政治部）を知つてゐるか

といふ質問であつたが、そんな言葉は知らないと云ふと、そんならコミンテルン（註、萬國共產黨）を知つてるかといふ。これもそんな難しい言葉は知らないといふと、今度は知多ではどんな人と交際があるかと訊くので、自分の知つてゐる露西亞人の名を一々並べると

——日本政府からどんな命令を受けて入り込んで來たのか

と訊くので自分は笑ひながら、自分は軍人ではない、商人である。商用の目的の外何にもないと答へた、それから外國商館の名など訊いたりして三時間ばかり費やした。



地下室では午後の五時から六時までの間に生れて見たこともないやうな黑パン一斤と、鯡の臭ひのするお湯を一杯當てがはれたが、これだけはどうしても手がつけられなかつた。勿論友人からは、經驗があると見えて寢臺やら、食物やら色々と差入れして呉れたが、流石に蠟燭だけは御法度と見えて送つて來なかつた。其の夜九時頃自分はまた訊問所に引張り出されて二時頃までかゝつた。その爲めに明け方から自分は發熱して非常に苦しいので醫者を呼んで貰ひたいと頼んだが、醫者は來ないで反對に又訊問所に引き出された。三日目に裁判官は君は

——商人だといふ辯にどうして日本の將校の知人が多いのか、嘘をいふと銃殺するぞ

と威嚇したので自分も憤然として

——どういふ譯で自分を日本の軍事探偵のやうに嫌疑をかけられるのか、自分は日本政府とはちつとも關係のない大英帝國の臣民だ

といつたところが今度は

——日本政府と關係がなけりや英國政府とはどんな關係があるか

と訊くから「自分は商人だ、官吏じやない」と答へたところが、裁判官は女通譯を室外に出してから、曳出しからピストルを出し、自分の側につか〳〵とやつて來て

——君は此の肖像は誰だか知つてゐるか

とトロツキーの寫眞を指して訊いた。で自分はそれはトロツキーだといつたら、裁判官は何やら言つた。しかし自分には通じない、此の時自分は裁判官のピストルを奪り上げてやらうかと、よつぽど考へたが止めた。裁判官はピストルを元の曳出しに納めて通譯の女を呼び込み、またいろ〳〵と質問したけれども自分は應答を拒絶した。すると裁判官は自分の後からついて來いと命じて自分を別な地下室につれ込んだ。

そこには燈がついてゐたが壁に銃丸の跡や、血痕があり〳〵と附いてゐる。自分を脅かす積りで、大方こんなところにつれ込んだのであらう。部屋の中にはピストルを手にした二人の牢番らしい男がゐた。裁判官はポケットから時計を出して自分に何とかいつたが通



じなかつた。すると裁判官は手眞似で壁の方を向いてこゝを見ろと命じた。このとき自分はもう最期だと覺悟した。そして裁判官の持つてゐる時計をひつたくつて土間に叩きつけ

——我輩は印度人だ。死を恐れるやうな男じやないぞ。つまらぬ狂言をするな。貴樣が我輩を銃殺する權利があるならやつて見ろ。をめ〳〵と斃れあせんぞ

と怒鳴つたが自分も昂奮の餘り土間に倒れて人事不省になつた。そして氣のついた時には通譯の女があたりを憚かるやうな小い聲で

——しつかりなさい、別に殺さうとしたのじやありません、安心なさい

といつて呉れた。間もなく自分は又別な地下室に押し込まれた。

## ◇……今度は露探扱ひ西方に順送り……◇

その翌日自分は訊問室に呼び出されたが、今度はベリスキーといふ別な裁判官が、自分の友人數名の姓名を呼び上げて、その人達との關係を尋ねたりして明日釋放すると宣告し

た。かくて翌日の午後、日曜日であつたが、自分は牢屋にひとしい衞戍司令部の門を出て、一時間後にはホテルの一室に自由の體を横へることが出來たのであるが、何となく不安であつた、着物や防寒外套は返して呉れたが、書類は押へられたまゝになつてゐる。もつとも、釋放の際に裁判官は木曜日に書類を届けてやると約束したので、待つてゐたところ、木曜日の朝五時頃、部屋をノツクして、前に自分を訊問した裁判官が二人の役人を連れて來て、これから書類を受取りに行かうといつて自分を停車場に連れて行つた。

が自分に旅行券や、書類は返さないで、何だかタイプライターで打つた書付を手渡してから、自分を車内に案内し、馬鹿叮嚀に挨拶して彼等は引き返した。列車内の車室には二人の若い男が同室してゐた。

——此の汽車は一體何處行きの汽車ですか

と聞いてもさつぱり通じない。自分はまた今しがた貰つた書付に何が書いてあるのか讀んで貰はうと思つて、手眞似で乘客に尋ねたところが、智識階級らしい英語の話せる婦人が



——これはあなたが莫斯科チエカ（註、非常委員、政治犯取締を任務とするもの、今のゲ・ペ・ウ）部員である證明書で、沿線の鐵道從業員に對して、途中故障なく旅行せしめられたいといふことと、沿線のチエカ部員に對し、本證所持人を逮捕、檢擧することは出來ないといふことを書いてあるんですよ

と教へて呉れた。聞いて自分はしまつたと思つた。見事一杯喰はされて、チエカの網に引つかゝつた小鳥同樣の體になつたのである。

近いイルクーツク市までものの九日もかゝつた。その上途中で乘客一同は排雪作業に手傳はされたり、ポンプの水を汲まされたりした。イルクーツクに着くと、そこのチエカの役人が二人來て私を寄宿舍に連れて行つた。自分は縣チエカに呼び出されたので

——何故自分をイルクーツクまで送つて來たのかさつぱり判らない

といつたが相手にされなかつた。それでも寄宿舍では自由を許され、煙草なども買ふことが出來たが、四五日經つてから自分は二等硬寢車に乘せられてノウオニコラエフスク市（西

伯利の首府、今のノウオシビリスク）に送られた。

## ◇……印度獨立運動の手先きに使ふ下心か……◇

イルクーツクを出てから十日も經つてノウオニコラエフスク市に着いて、チエカの本部に泊つた。翌日は早朝から看視の役人附きで湯にも入り、料理屋で食事もした。久し振りでの料理屋での食事だつたから、その味は今でも忘れない。本部では縣チエカの長パウロフスキーといふのが愛想よく迎へて握手などした。で自分は「一體自分をどうしやうといのか」と尋ねたら

——中央の命令通りですから私にも判りかねます

といつた。そして知多の友人のことに就いて二三質問されて別の一室に案内されたが、そこには赤軍の兵士や、チエカ部員がうよ〳〵してゐて、そ奴らのために所持品や金を大方捲き上げられてしまつた上に二階の一室にブチ込まれた、知多では獨房だつたが、こゝで



はゴタ交ぜだ。部屋も風が吹き通しだから寒くてたまらない。其の夜例の鯡の臭ひのする御湯一杯と、石のやうに固い黑パンを當てがはれたのだ。翌朝も同じ臭い湯を持つて來たから番人の奴にそれを叩きつけてやつたところが、どうした調子でか、別な暖い、寢臺のある部屋に自分を移した。八日目の午前自分は赤軍の兵士に護衛され橇に乘せられて停車場に送られた。

其の年は露西亞では未曾有の饑饉年であつたので、各驛とも饑民で一杯であつた。自分はまる一日間混雜した驛構内に饑民に揉まれて審さに見る事が出來たが、その哀れな有樣はとても涙なしに見てゐれなかつた。

チエカの御大將チエルヂンスキーも自分の乘つた汽車でオムスクまで行つた。自分は三人の護衛兵と共に特別車室に入つたが、途中他の乘客と一緒に薪の運搬やら、水の配給に手傳はされた。途中で乘り合ひの若い人々が音樂會を催ふしたので、自分も僅かばかり金を寄附した。その連中の中の英語の少し出來る人と話して見たが、その人はトルキスタン

線の將校で、頻りに自分に同情して呉れて

——君は莫斯科まで送られるのだ、それは大に譯があることで、君を牢屋にブチ込むやうなことは決してないよ。その代りウンシュリフト（ヂエルヂンスキーの補佐官）の奴が君をチエカの東洋部に働かさうといふ下心があるからに相違ない

と說明し呉れた。自分は不思議に思つて

——だつて自分は今まで憲兵や、內務省などの飯を食つた經驗はないから、そんな筈はない

といつたらその將校は

——君も頭の惡い男だな、印度獨立運動の道具に君を使はうといふ譯サ

といつて妙な笑ひ方をした。

## ◇……莫斯科の監獄で　久保田、神保、大庭氏と同獄……◇



千九百二十二年三月一日我等は莫斯科に到着した。驛で數分間待たされて後ルビヤンカ第二號家屋に送り込まれた。露西亞では罪の有る無しに拘はらず、馬車賃は嫌疑者が拂はねばならぬことになつてゐる。ノウオニコラエフスクの牢屋でも暖房料を拂はされた。汽車賃だけがロハである。莫斯科チエカに着くと直ぐに身體檢査をされて所謂犬小屋と稱する……老若男女、達者な者も病人も一切合財區別のない……部屋にブチ込まれ後に未決囚のは入る拘留所に移されたが、こゝはルビヤンカよりもつと惡く、殊に自分は刑事犯人のは入る處に入れられたのであつた。しかしその連中と話しすることが出來て、退屈しのぎには寧ろ愉快であつた。

こゝにゐる間に續々と新入者が來た、中には莫斯科一流の大商店であつたジャツク商會の若主人公もブチ込まれて來た。此の人は英語が非常に達者であつたから、願書を書いて貰つて差し出したが何の返事も來なかつた。それから四日目に自分はいよ〳〵有名なブトイルスカヤ監獄に送られることになつたが、自分はもう此の頃は監獄自動車まで物を運ぶ

氣力さへ無くなつてゐた。監獄自動車の中は眞暗い、物の四五十人も犬猫のやうにブチ込んである。何分間かの後監獄に着いたが、三月四日の莫斯科はまだ隨分寒い。露西亞人なら雪が降らぬと物足らぬ位ひだらうが、熱帶國生れの印度人にはとても我慢が出來ない。お負けに生ぬるい風呂に入れられて、ブル〳〵震へ上つてしまつた。入浴が終ると自分は囚徒の着る官給の上着を當てがはれたので、外套を返して呉れと怒鳴つたが役人は振り向きもしなかつた。

牢屋の中にはブルジョイカといふ小さな暖爐が据えつけてある。番人は金を出して薪を買ふなら焚いてやるといふが、自分はもうすつかり丸裸にされてゐるから、そんな金のある筈はなし、寒さに凍えてしまつた、當時盛んにチブスが流行し同監者も四五人傳染したので隔離された。

其の後自分は牢番から此の監獄にはクボタ（註、久保田榮吉氏のこと）シンボ（註、神保清氏）オーバ（註、大庭柯公氏）といふ三人の日本人が拘禁されれゐると聞いた。自分



は永年日本にゐたので、どうかしてその日本人に逢つて見たい、又何とかして一緒の部屋に入れてもらうことは出來ないものかと係りの役人に頼んだが、やつと願が叶つて同部屋になつた。斯くして一緒になつて互ひに經歷話しをする內に、何故これらの日本人が拘禁されてゐるかといふ事情が判つた。クボタ氏は永く浦鹽にゐた新聞記者で、千九百二十一年にチエカが同氏を欺いて莫斯科に向はしめ、その途中イルクーツク市で逮捕したもので、當時イルクーツク市には朝鮮人が編成した特別部隊もあつたが、此處で軍事探偵の嫌疑を受け、莫斯科に送られて來てブトイルスカヤ監獄にブチ込まれたのである。此の人は後に日本に返されたやうである。

シンボ、オーバ兩氏も氣の毒で、シンボ氏は歐洲戰爭當時佛蘭西に行つて飛行士となり、後に共產黨員と共に露西亞に來て飛行隊に入つたが、千九百十九年に日本文で不穩な宣傳文を書けと强制され、已を得ず書いたが、宣傳文が西伯利出兵中の日本軍將士に配られたのである。ボリシエウイキに對するかゝる忠勤も水泡に歸し、反つて軍事探偵の嫌疑を

受け、いろ〳〵訊問されたので憤慨し、辭表を出し、飛行研究のため獨逸や佛蘭西に行くから旅券を渡せと要求したが、あべこべに投獄され、一度は死刑の宣告を受けその後二十年の懲役に減刑されたと後で人に聞いた。オーバ氏と來ては六十にもなる老人で、新聞記者であつたが、莫斯科行きの途中逮捕され、軍事探偵として銃殺の刑を宣告されたもので、其の後どうなつたか知らないが、自分が同獄してゐた時に近かく刑の執行があるといつてゐたし、體も非常に弱つてゐた。

## ◇……絶　食……◇

自分は如何なる理由でブトイルスカヤ監獄に投ぜられたのか、その理由が依然として判らない。從つて業腹でたまらないからチエカや檢事や、果は赤十字社にまで書面を何度も差し出したが、何處からも何の便りもなかつた。で自分はとう〳〵絶食するぞと言ひ出したところ、それならと今度は南京蟲の澤山ゐる、そして恐ろしく不潔な絶食同盟者室に押し込まれた。絶食決行後四日目になつて監獄醫が診察に來て



——絶食なんか止め給へ、君はまだ年は若いが體は丈夫じやないから、絶食しなくともどうせ長生きはすまい

と忠告して呉れたが、自分はやはり絶食を續けたところ、二三日たつてから自分の事件が革命軍事委員會議の審理に移されたといふ電報が來た。此の電報があつてから自分は監獄内の病院に移され、クラスヌシキンといふ主治醫が投藥してくれたが、その恩は自分の一生涯忘るゝことの出來ない地獄で佛の有難さである。

## ◇……裁判官も投獄の理由を知らぬ……◇

革命軍事會議長の訊問を受けるやうになつたのは、それから二ケ月後であつた。議長は品のいゝ老人で「君は何者であるか？——どうして投獄されたか？」といふやうな質問を發した、自分は

——貴君達が知らない位ひなら、何故自分を投獄して平氣でゐるのか

と反問したところ、何れ取調べた上でとかいつてその日は終つた。十日ばかりすると又呼び出された。議長は

——君の事件に就て當方には書類が一つも廻つて來てゐない。しかし今釋放する譯にもいかぬから願書を認め給へ、**チエカ**に取次ぐから

とのことで又長い願書を書かされた。が例によつて梨のつぶてに過ぎなかつた。その内千九百二十三年の冬も過ぎて婆婆は春になつた。自分は、一日獄屋の窓から印度の神様を念じて祈願したが、その一念通じたか、翌日縣**チエカ**に呼び出された。

縣**チエカ**の長はボレオイとかいふ男で、やはり前のやうに、何の罪で投獄されたのかといふやうな質問だけて牢に引き下げられた。それから何週間か經つて呼び出され今度は

——印度人の第三**インターナショナリスト**の間に誰か友人はないか

と奇問を發せられたので自分は

——第三**インターナショナル**に加入してゐるかどうか知らないが主義者で**バラカトラ**と



いふ博士を知つてゐる

と答へた。議長は何れ印度人の主義者を呼び出して君の身の上のことをよく相談するといつて其の日は打ち切りとなつた。その結果今度呼び出された時には二十歳前後の若僧の印度人が二人議長の側にゐて露西亞語で話してゐたが、それは自分よりも下手であつた。彼等は印度語で「我々は第三**インターナショナリスト**だが**バラカトラ**博士のことは知らない」といつたから自分は「馬鹿野郎、第三**インターナショナル**の犬なんかになりやがつて」と怒鳴りつけてやつた。

やがて二人が室外に出されると入れ替はりに、東洋人らしい若い男がは入つて來て英語で「私は長く東洋にゐたから、東洋の政情はよく知つてゐる、とか、君も第三**インターナショナル**に入らんか」など、勸めたが自分は斷然拒絶して牢屋に下がつた。

斯樣な調子で何時まで經つても一向に埒は明かない。考へれば考へるほど癪にさわつてたまらんので今度は自分から再訊問を要求し「一そのこと俺を銃殺して與れ」と怒鳴つて

やつたら、議長はせゝら笑つて「サウエート露西亞では滅多に人を殺せませんよ」とぬかして一通の手紙を自分に見せた。見ればバラカトラ博士からの手紙で「クレイシンのことはよく知つてゐる。本人は決して軍事探偵なんかするやうな男じやない」と英語で認めてある。これで愈々自分の無罪のことが判明した筈なのに釋放はして呉れない。

千九百二十三年の九月になつて今度は内務省の決議で自分をソロフカの收容所に送ると申渡された。自分はもう驚かない「どうにでもなりやがれ」と一言いつて素直に命令書に署名してやつた。

## ◇……絶食同盟首腦者は無裁判銃殺……◇

ブトイルスカヤ監獄にブチ込まれてゐる間、自分は在監者からサウエート露西亞の裏面の亂脈なことについて、いろ〳〵と耳にたこの出來る程聞かされた。大凡のことはもう世間が知つてゐるだらうから書かないが、たゞ千九百二十三年中に在監者が絶食同盟をした



一事だけを書かう。この時には半死半生の病人までも同盟に加入した位ひだから……自分は當時病院にゐたが主治醫は「病院で絶食をやられちや困る。絶食するなら監房に歸つて呉れ」といつた。絶食同盟側の要求は

「パン一斤を一斤半に增加すること。十日分の砂糖供給量コップ一杯分を二杯分に增加すること。スープは人間の飲める程度のものを與へられたきこと

で、さていよ〳〵やつゝける段になれば景氣をつけねばと、病人連が窓硝子を打ち破つたり、ドラ聲で歌ふやら大騒ぎの示威運動をやつた。騒ぎがあまり大きいので監獄側も我を折つて囚人の要求を容れるから絶食同盟を直ぐ止めるやうにといふことになつた。で翌日から一同も食事を始めたが、何事ぞその晩、絶食同盟の首腦者十數名の囚人は無裁判で銃殺されてしまつたのである。

この殘虐無道は目前自分が目擊した事實である。何たる暴虐であらうか……。

（社員、東幸太郎譯）

# 波蘭人の實驗談

最近サウエート露西亞と波蘭との間に、政治犯人交換協定が結ばれた。その結果サウエートの監獄に收容されてゐた波蘭人三十二名が釋放されて歸國し、その内の數名が一月中旬首府ワルシヤワに歸來し、彼等が反革命罪の罪名の下にサウエート監獄に呻吟してゐた、その間の悲慘な實情について異口同音に述べ、それが新聞紙上にいろ〳〵と掲載された。左記はその内の一人で高架索のチフリス市に開業してゐたドクトル・リピンスキー氏が、チフリスの波蘭領事館に、自分が波蘭人であるといふ身許證明を受くるために、二三回往復したのが祟つて投獄されて以來、今日までの實話で、多くの新聞にも轉載されたものである。

千九百二十四年八月の何日でしたか、私の宿舍に探偵が四名も踏み込んで來て、私をゲ・ペ・ウに拘引して行つて軍事探偵の嫌疑で訊問せうとしたが、元より身に覺えのないことだし、そんな訊問には應じないと跳ねつけたので、私は地下室の獨房にブチ込まれた。その時の食事といふのが粗末なパン半斤と、ぬる湯を少しづゝと云ふ有樣それも窓口から差し入れるので、面會人にも逢はせず、室外にも出さない。獨房の中は無數の鼠が棲んでゐた位ひだから不潔、陰鬱さ加減は推して知るべしである。だか



ら私はまるで狂人になりさうだつた。いつそ死んでしまつた方がいゝと思つたことは何度あつたか判らない。つまりこんなに虐待して置いて私に白狀させやうとしたのである。

こんな狀態だから私も腎臟を惡くしたが賴んでも醫者も寄越さない。その内に私の隣りの獨房に矢張りブチ込まれて同じ苦しみを受けてゐた、バツーム駐在獨逸領事が病氣で死んでしまつたので、流石のゲ・ペ・ウも後悔したのか、それとも問題になると考へたのか、監獄長を更迭し囚人の待遇を少しばかり改善したので、私はやつと監獄病院に移され、初めて日光に浴することが出來た。が病氣が幾分快方に向ひかけた頃、二十八名の囚人と共に嚴重な監視つきで、そして途中種々な辛苦を嘗めさせられて莫斯科に送られ、ブトイルスク・タガン・ルビヤンカと三ケ所もゲ・ペ・ウの監獄で服役させられた。

その間碌すつぽ訊問はない。漸く千九百二十六年四月になつて肉體的にも、精神的にも苦痛を加へられる訊問が始まり、五月十八日には罪も科もない私は死刑の宣告を受けたのである。が幸か不幸か莫斯科にあつた波蘭赤十字社長ペシコフ氏や、波蘭大使館の抗議で死刑は取り止めになり、新に懲役十年、ソロフカ島流刑を申渡され、八月になつてケムスキー收容所に護送されてそこに半年ばかり服役してゐたが、その間にそこの囚人九百名の中の七百名が營養不良やその他の爲めに死亡したのを目擊した。

それからいよ〳〵ソロフカ島にやられたのであるが、當時島には一萬六千人といふ夥だしい囚人が、名狀すべからざる慘狀にあり、勞働は間斷なく强制され、食物は碌に與へず、僅かな落度にも蹴る、擲るといつたやうに、まつたく牛馬同樣の虐待を受けてゐたのである。囚人の中には波蘭を脱出して露西亞に潛入して、歡待どころか監獄にブチ込まれた波蘭共產黨員や、露西亞に憧がれて千九百二十三年頃に入國し、最初はチヤホヤ云はれたが、ローゼンフエリドだの、エリウエリだの或はマツサウエルなど、ゲ・ペ・ウの手先きになつてゐる同志の者に毛嫌ひされ、一人〳〵捕はれてソロフカ送りになつた獨逸共產黨員などが多數あつて寄ると觸はるとゲ・ペ・ウの暴虐非道を憤慨してゐた……。

次はリピンスキー氏と同時に今回ワルシヤワに歸つて來た波蘭婦人エミリヤ・イワノフスカヤの實話である。

私はミンスク市でやはり軍事探偵の嫌疑で、ポリシエウイキに捕まつたのであるが、同地のゲ・ペ・ウの長たるシコルスキーといふのが、訊問と稱しては每晩怪しからぬ振舞ひをしたり、いろんな拷問をしたり、白狀せぬと兄を逮捕するぞといつたり、或時はお前の兄はとう〳〵銃殺したといつて、其の時の模樣を細々と話して聞かせ、白狀



せぬとお前も今夜銃殺するぞと嚇したりしたことがあつた。

千九百二十五年十二月私はケミに送られ四十九名の女囚と一所に不潔な筋肉勞働に從事してゐたが、今日お前を釋放すると宣告されたときには、今度こそゲ・ペ・ウのために弄ばれるのであらうと覺悟をきめたほど、釋放命令が信ぜられなかつた……。

## 舊帝室の財寶

舊ロマノフ皇室の財寶でサウエート政權の手に歸し、現在莫斯科の大藏省の地下室に保存してあるのは合計四百六點であるが、その價格は全部で二億五千萬弗と値ぶみされてゐる。其の內ダイヤだけでも合計二萬五千カラットあり、一番大きなのはオルロフと稱するもので一つで百八十五カラットもあり、その次ぎのシヤフとい ふのでも八十八カラットあると。

# ヨッフエ氏の遺書

……多年の同志トロッキー氏に當て、時勢を慨し遺族を託す……

晩年不遇の地位にあつた彼のヨッフエ氏の自殺は、日本に馴染の深いだけに少からず我が朝野を驚かしたものであつた。當時その自殺の原因の一として、ヨッフエ氏が晩年近づけてゐた或る年若い美人……チチエリン氏から彼の女は警戒し給へと屢々忠告された……の爲めに重要な機密書類を盗まれて重大な責任問題が起つた。ヨッフエ氏は豫て再起の見込なき程病氣に惱まされ續けてゐたので、愈々自殺の決心を固めたのだ、等といふ說も當時消息通の間に傳はつてゐた。この說の眞疑の程は分明でないが、左記は伯林の露紙ルーリの十二月二十八日の紙上に發表されたもので、消息通露西亞人の間には間違ないものだと信ぜられてゐる。

敬愛するレフ・ダウヰドウヰチ（トロッキー）よ！余は凡そ政治家なる者は、出所進退が最も大切で、丁度名俳優が惜まれながら、人氣のある內に舞臺から退くやうに、人間は切り上げ時が一番大切であるといふことを常に確信して來た。ところで既に數年間現在の黨リーダーは、政見を異にする反對派の者の手腕を伸べしめず余に對してもまた黨の事業にも、サウエート國家の事業にも干與せしめず、余が反對派なるが故に黨の政治部から遠ざけられてゐることは君の知る通りである。

九月下旬、黨中央委員會內の醫療委員は何故



か余の病症に關し專門醫師會議を開き「余の兩肺が既に結核菌に侵され、膽臟に炎症を起し盲腸炎を併發し、かつ陽性神經病患者なり」と診斷を下した。この診斷は余自身の信ずるところよりも餘程重態、惡性に見られたものであるが同委員はまた余の現在受持つてゐる高等學府の講義をも中止し、外國に轉地療養を要し、その出發までの一時療法として大學病院に入院するやうにと決議した。然るに醫療委員は斯樣な決議をしながらその後二ケ月も余に對して何等の處置をも講じて呉れないのみか、其の後大學病院の施藥さへも中止したので、自費でもつて市の病院から藥を求むるの止むなきに至つたのである。斯くて九日前、余は遂に身動きも出來ないほどの重態に陷つた。何分にも痛みが烈しいので今日醫者を招いたところ、その醫者は「どうにも手の下しやうがなくなつた、ただ轉地療養をして病勢の昂進を緩和する外ない」といつた、その夜中央委員會から來た醫者ボテムキンは妻に向つて「委員會は余を外國に轉地せしめず、國內で靜養すべしと決議し治療費として千弗（二千留）限り支出することに定めたことを告げた。

余は君も知るとほり、今まで黨のためには千留どころか、革命以來余の財產全部を失つてしまつて、今では治療費にさへ差支へる身になつてゐる。さりとて此の重態では勞働することも出來ない、進退ここに谷つた以上、遂に死を選ぶ外ないと決心した。何れ早晩幹部派と反對派とはその地位を顚倒するに至るべしとは信ずるが、君をさへ除名して平然たるが如き黨の態度は全く余の堪へざるところである。又何れ黨が覺醒する日の來るべきことも信ずるが、それは近き將來のことではない。

余は君と十年來、公私共に親しい關係を續けて來た。故に君は余の死をもつて早まつたことと思ふて呉れるであらう。余は決して君の主義主張の正當であることを疑はない。しかしながら余は常々レニンの如き不撓不屈の精神が、どうも君に缺けてゐると思つてゐた。今後君が中堅勢力となるには、是非此の不撓不屈の精神をもつて正道を進まねばならぬと思ふ。君の政見は千九百五年以來常に正しかつた。レニンでさへも、當時はトロツキーの政見の方が自分よりも正しかつたと告白した事は、再三君に傳へたところである。死に直面した余は決して嘘は云はない。繰り返へして云ふ、君の政治的主張は今日は一層正しくなつてゐる。だから黨が今後君の主張を容れるならば、黨の歴史は必ず一變するであらう。

終りに臨み余の個人のことを御依頼する、それは余の死後、獨立生活の經驗に乏しい妻と幼き男兒と、成年に達した一人の娘が世に殘される。君の今日の境遇では彼等のために力を割かれ難いことは充分に知つてゐるが、さりとて現在の幹部連に、こんなことは頼まれない。余は近き將來に、君が黨内に勢力を恢復する日あるべきを信ずるから、その時には何分よろしく御願ひしたい。

最後に今後益々奮鬪されて、速に勝利を獲られんことを切望する。別れに臨みてヨツフエ記す。（十一月十六日莫斯科において）



佛國著名記者の

# 露西亞視察記

ジエオ・ロンドン氏

佛蘭西の著名な新聞記者ジエオ・ロンドン氏は、過般莫斯科をはじめ、村落地方にも出掛けて、サウエート露西亞の近況を親しく視察して新聞紙上を賑はしたが、最近さらに「ジユルナル」誌上に視察記を發表した。莫斯科到着匆々レニンのお墓詣でから筆を起してあるが、今まで發表された視察記とはまた趣を異にし、詳しいところもあり、參考になる點が多いから玆に譯載する。

## レニンのお墓

自分がレニンのお墓に參詣したのは午後八時頃であつた。もつとも赤廣場のレニンのお墓は午後八時から一時間だけ、參詣人のために開かれることになつてゐるから、毎晩千人近くの者が順番の來るのを待つて中にはいるのである。自分が行つた時にはルバシカを着

た勞働者や、百姓や、だぶ〳〵のズボンを穿いた哥薩克やら、二十種の異民族代表やら、家族連れで來た觀光團などが門前に群がつてゐた。これらの參詣人はあたりが眞暗くなる頃まで待たねばならぬのだ。さて漸く夜になつた。ピラミツトのやうな墓所の屋根には電燈がついた。有難味が加はるやうに芝居がかりでやるなと少し可笑しくもあつた。案内者のワシリー君はどうです前の方に出ませうと自分の手を引いた。

「なあにワイシャツを着てる人間なら順番なんか心配せんでも何處にでも出られますよ」といつた。なるほど群集を押し分けて一緒に前に進んだが、誰も文句いふ者は居なかつた。ワイシャツを着るものはコミツサール階級であらう。門は開いた。中にはいらうとして番兵に腕を摑まれ姓名を問はれたが、佛蘭西記者ロンドンだといつたら手を放して中におはいりと叮嚀に云つてくれた。天井も壁も赤い布で張りつめられ、世界地圖が前の方に貼つてあつた。何となく厭な臭ひがする。乾魚市場にでも居るやうな氣持ちだ。寢棺の周圍には四名の番兵がつゝ立つてゐる。レニンの頭は絹枕の中に半ば以上埋まつてゐる。腕には



赤旗勳章をつけてゐた。兩手は蠟細工らしく思はれるので、よく見ると矢張り全體が蠟細工で、本物の死體は人の知らない所に埋めてあるといふ噂が本當だと思はれた。

## 酒場

レニンの靈場拜觀で陰氣になつた我々は、今度は陽氣な氣分にひたらうと、酒場に案内してもらつた。ジプシー女が盛んに踊つてゐた。十五分間おき位ひにいろんな唄を歌つてゐるが、中にはチエンバレンを罵倒するやうな流行唄もあつたが、醉つ拂つた露西亞人が四五人、あまり五月蠅いので外に叩き出されたときは皆んなが、チエンバレンの惡口を聞いてゐる時よりも面白相な顏をしてゐた。ボーイにチツプを奮發したら矢張りペコ〳〵頭を下げて感謝した。午前三時になつて歸る頃には尙ほ相當人通りがあり私娼は盛んに男を引張つてゐた。案内人は「コミツサールなんか露西亞には姪賣は一人もゐないなんて嘘ばつかり云つてゐますよ」と笑つた。

## カーメネフ夫人

海外文化連絡協會長カーメネフ夫人に面會したが、案内人から無駄だからおよしなさいと云はれたとほり、實際失望した。面會の際二人の役人らしい男と、外に兵士や角袖らしいのが見張つてゐるので、夫人は目ばかりキヨロ〳〵させてあたりに氣兼ねしてゐる有樣で碌々話しも出來ずに引上げた。

## 市民の生活振り

露西亞人が得意になつて外來者に見せる新築中の家屋を見たが、普通の莫斯科市民の住んでる家屋と少しも變らない。サウエートの役所と第三インターナシヨナルの機關が割り込んで以來、莫斯科の二百萬人の市民はまるで壽司詰めの有樣である。一室に家族六人が住んでるのを見たが、こんなのは炊事は大抵二階で共同でやつてゐる。だから飯時にそこに行つて見ると石油コンロが二十臺も一齊に音を立て、二十名のかみさん連が各々子供に飯をせがまれながらセツセと働いてゐる、まるで戰時のやうだ。

## 家屋サウエート



間借人は規則にもとづき收入の多寡に應じて間代を拂ふてゐる、これだけは公平至極であるが、實際に部屋を手に入れるには所謂立退料として、時には千留も住宅管理局に納めねばならない。また家を留守にして夏季旅行でもして歸つて來ると、道具類は梯子段の下あたりに放り出してある。家屋サウエートに苦情を申し込んでも

「君が家を明けるから惡いんだ、金が入用だから人に貸したのサ」

と答へて平氣だといふ。市民一人當りの住宅面積は十六平方アルシン（二アルシンは我が二尺三寸）と法律で定められてゐるが、そんなことで我慢は出來ない。大官や學者や、帝政時代に牢屋に叩き込まれてゐた連中は特別の恩典を與へられてゐるが、これ等の連中でも若しウツカリ政府の惡口でも云はうものなら直ぐと規定外の住居面積附與の特權を剝奪され、狹い牢屋の一隅にブチ込まれるか、でなければ西伯利に流刑と來る。もつとも此處は面積は馬鹿に廣いが待遇が大いに違ふことは誰しも知つてゐる。

## 裁判所